

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位評価目標 (成績評価C)
解剖生理学I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	解剖生理学は人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を融合し、系統的に学ぶ科目である。ヒトの体や構成している各器官がどのように構成され、またどのように働くかを探求し、ヒトが生きていくためにどのような営みをしているかを学ぶ。解剖生理学Iでは、細胞・組織・遺伝子、基本的人体の構造、細胞膜の構造とその働き、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿・排泄を学ぶ。	1. 人体を構成する細胞、組織を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 外皮系・呼吸器系・循環器系・消化器系に関する人体の構造と機能を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基礎として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 人体を構成する細胞、組織を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 外皮系・呼吸器系・循環器系・消化器系に関する人体の構造と機能を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基礎として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
解剖生理学II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	解剖生理学は人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を融合し、系統的に学ぶ科目である。ヒトの体や構成している各器官がどのように構成され、またどのように働くかを探求し、ヒトが生きていくためにどのような営みをしているかを学ぶ。解剖生理学IIでは、血液・体液・免疫系・神経・感覚器系・腎臓・泌尿器系・内分泌系、体温調節、成長と老化を学ぶ。	1. 骨格系・筋系・内分泌・泌尿器系・生殖器系・代謝系・神経系・感覚系および免疫系に関する人体の構造と機能を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 看護実践の基礎として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 骨格系・筋系・内分泌・泌尿器系・生殖器系・代謝系・神経系・感覚系および免疫系に関する人体の構造と機能を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 看護実践の基礎として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
生化学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	生化学は、生命を形成している生体物質と、生体物質が相互に変化する代謝について、分子レベルで研究し、生命現象を解明する学問である。人体において、糖質、脂質、タンパク質、核酸などのいろいろな生体物質とその代謝によって生じたさまざまな生体物質である遺伝情報や酵素など、生化学の基礎的知識を教授し、健康の維持、疾患の原因の理解、疾患を早期発見するための検査、疾患の予防や治療、医薬品の開発と関連について学習する。	1. 生化学の基礎的事項を理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 遺伝情報の仕組みについて理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 疾病の病因、病態、診断、治療の生化学的要因について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護実践の基礎として生化学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 生化学の基礎的事項を概ね理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 遺伝情報の仕組みについて概ね理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 疾病の病因、病態、診断、治療の生化学的要因について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護実践の基礎として生化学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	疾病の基本的な原因と発症機序を理解し、人体を構成する細胞、組織、臓器における病変を形態学(肉眼的・顕微鏡的)に基づいて理解する。細胞や組織の基本的な変化を総論で学び、個々の疾患の病理診断を各論で理解することで、病気のなりたち、治療、予防へとつなげていく知識を修得する。細胞、組織、臓器の形態学的変化が疾病となり、その疾病が身体に及ぼす影響を説明できるようにすることを目標とする。	1. 疾病が身体に及ぼす影響や変化について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 人体を構成する細胞、組織、臓器の病変を、形態学的な視点から疾病ごとに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)	1. 疾病が身体に及ぼす影響や変化について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 人体を構成する細胞、組織、臓器の病変や成立を、形態学的な視点から概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)
発達心理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護の対象となる人々について、年齢に応じた心の特徴や心の発達過程、発達の個人差とその背後にある環境等の要因について学ぶことを通じて、対象者の発達段階や個人差に応じたコミュニケーション、看護実践を行うために必要な専門的知識を得る。	1. 発達段階ごとの心の特徴や心の発達過程について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 心の発達の個人差について理解し、その個人差を生み出す要因について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 心の発達段階や個人差といった発達心理学の観点から、看護対象者との適切なコミュニケーションのあり方や良好なケア環境の構成について考えることができる。(アセスメント力、実践力)	1. 発達段階ごとの心の特徴や心の発達過程について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 心の発達の個人差について概ね理解し、その個人差を生み出す要因についての基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 心の発達段階や個人差といった発達心理学の観点から、看護対象者との適切なコミュニケーションのあり方や良好なケア環境の構成について考えることの重要性を理解している。(アセスメント力、実践力)
微生物学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	得る看護師として知っておくべき各種感染症と病原微生物の特徴について理解する。微生物学は生物学、生化学、免疫学、感染症学など複数の分野の関連していることから、当該授業においては、まず生物学、生化学の基礎を確認したうえで、微生物学の歴史、微生物の構造と性質について学習する。さらに免疫学の基礎的な事項、感染と感染症、感染予防・治療法、病原微生物と感染症へ学習を進めていく。	1. 微生物の構造や増殖様式について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. ヒトの免疫機構の基本を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 主な感染症の種類と特徴および原因微生物について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 感染症の予防や治療の基本的事項について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護師として安全な医療活動を行うための微生物学的事項を列挙できる。(自然科学的・臨床医学的知識)	1. 微生物の構造や増殖様式について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. ヒトの免疫機構の基本を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 主な感染症の種類と特徴および原因微生物について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 感染症の予防や治療の基本的事項について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護師として安全な医療活動を行うための微生物学的事項を概ね列挙できる。(自然科学的・臨床医学的知識)
栄養学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護において、対象の健康生活への援助における栄養に関するアセスメント・プランニングは、重要な役割である。本教材では、この役割を遂行するための基礎となる理論について学ぶ。具体的には、食物の摂取にかかわる生理機能、栄養の吸収・代謝・異化の過程について学習する。さらに、健康増進時における栄養療法について、疾患系統別の食事療法の実践について学び、健康回復に必要な基礎となる知識を修得する。	1. 生命維持に必要な栄養素の消化・吸収・代謝、ライフステージごとの栄養学的特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 食物摂取にかかわる生理機能、吸収・代謝・異化について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 健康の維持および疾病の予防や治療のための食事の役割を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 看護実践の基礎として栄養学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 生命維持に必要な栄養素の消化・吸収・代謝、ライフステージごとの栄養学的特徴を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 食物摂取にかかわる生理機能、吸収・代謝・異化について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 健康の維持および疾病の予防や治療のための食事の役割を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 看護実践の基礎として栄養学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
薬理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	適正かつ安全な薬物療法に貢献できるようにするため、薬物の体内動態・作用機序、有害作用に関する基本的事項を学習した後、各種疾患の薬物療法の概要、代表的な治療薬と有害作用、さらには、これら治療薬の適正な使用方法および副作用の回避法について紹介する。また、薬物の管理法についても学習する。	1. 薬物療法における薬物体内動態や作用機序について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 適切な薬物療法を行うための実践的な薬物の使用方法について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基礎として薬理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 薬物療法における薬物体内動態や作用機序について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 適切な薬物療法を行うための実践的な薬物の使用方法について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基礎として薬理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療I (臓器疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性を理解し、それぞれの疾患についての病因、病態、診断、治療についての基礎的知識を修得する。	1. 呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)	1. 呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について、概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について、基本的な説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について、基本的な説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療II (全身システム疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系疾患の病因、病態、診断、治療について基礎的知識を修得する。	1. 内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムについて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各疾患の発生機序と病態について説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムについて概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各疾患の発生機序と病態について基本的な説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について基本的な説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療III (老年科疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	高齢者の身体の構造と機能の特徴を理解し、老年科疾患の発生機序と病態・診断・治療についての基礎的知識を修得する。	1. 加齢と老化のメカニズムについて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 高齢者に生じやすい疾患の病態、診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 老年看護実践において必要とされる医学的知識を理解し、自らの学習課題と関連づけながら主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 加齢と老化のメカニズムを概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 高齢者に生じやすい主要な疾患について、その病態、診断・治療を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 老年看護実践において必要とされる医学的知識に関する自身の学習課題を表現できる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療IV (産婦人科疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	女性および妊娠・分娩・産褥期の母体の身体の構造と機能と理解し、女性生殖系および妊娠・分娩・産褥期の母体の異常の発生機序と病態・診断・治療についての基礎的知識を修得する。	1. 女性生殖系の構造と機能、異常の発生機序・病態、診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 妊娠・分娩、産褥における母体の身体の構造と機能、異常の発生機序と病態、診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 産婦人科領域における医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 女性生殖系の構造と機能、異常の発生機序・病態、診断・治療について、概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 妊娠・分娩、産褥における母体の身体の構造と機能、異常の発生機序と病態、診断・治療について、概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 産婦人科領域における医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療V (小児科疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	先天性疾患や小児期よりみられる疾患について基礎的知識を修得する。各発症期の身体的特徴と疾患について、病因、病態、症状、検査、および治療について学習するとともに、小児科診療の現状を理解する。これらにより、小児看護学の学習に必要な小児医学的知識を理解する。	(1) 新生児期から思春期までの小児発症期における発育の特徴を系統的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (2) 主な先天性疾患の病因、病態、および症状について系統的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (3) 主な先天性疾患の検査、治療について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (4) 小児期に罹患しやすい疾患の病因、病態、および症状について系統的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (5) 小児期に罹患しやすい疾患の検査、治療について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (6) 小児看護における医学的知識の必要性を意味づけし、自身の学習課題が挙げられる。(研究能力・自己研鑽)	(1) 新生児期から思春期までの小児発症期における発育の基本的な特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (2) 主な先天性疾患の病因、病態、および症状について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (3) 主な先天性疾患の検査、治療について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (4) 小児期に罹患しやすい疾患の病因、病態、および症状について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (5) 小児期に罹患しやすい疾患の検査、治療について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (6) 小児看護における医学的知識の必要性を意味づけして述べられる。(研究能力・自己研鑽)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
両眼と治療VI (精神系疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	精神機能とその障がいについて理解し、特徴的な精神疾患について、その発生機序・病態・診断・治療に関する精神医学の基礎的な知識を修得する。精神機能とその障がいについて説明できるようになること、特徴的な精神科疾患についての診断・治療についての知識を取得する。	1. 精神機能とその障がいについて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 特徴的な精神科疾患についての診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 精神看護において必要とされる医学的知識を理解し、自身の学習課題と関連づけながら主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 精神機能とその障がいについて大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 特徴的な精神科疾患についての診断・治療について大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 精神看護において必要とされる医学的知識を理解し、自身の学習課題を述べることができる。(研究能力・自己研鑽)
看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	本科目は、看護学の導入に位置づけられ、看護の主要な概念を多角的に探究することを目的としている。看護の対象となる人々を「生活者」として捉え、健康、環境、看護とは何かについて学ぶ。また、高い倫理観に基づき生活者の権利を擁護する看護観を醸成する。看護におけるケアの必要性やコミュニケーションの重要性を理解する。具体的には、看護および看護学の歴史的背景、看護実践を支える根拠である看護理論、さらに災害などの今日的課題についても学ぶ。これらを通して、看護および看護学について主体的な考えを深め発展的な学習姿勢を養う。	1. 看護を構成する主要要素(生活者、健康、環境、看護)について明確に説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 看護の歴史的背景を踏まえ、看護と社会の関わりや専門性について明確に説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 主要な看護理論について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 看護に関連する法や教育制度について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 看護の役割と機能について明確に説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 6. 看護活動に必要な基礎的概念(看護過程、安全、看護管理ほか)について明確に説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 7. 保健医療福祉システムとチーム医療の概要について明確に説明できる。(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 8. 看護職に求められる倫理観について、自分の考えを明確に述べることができる。(倫理観、自律性)	1. 看護を構成する主要要素(看護、生活者、健康、環境)について、大まかに述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 看護の歴史的背景を概観し、看護の専門性について大まかに述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 主要な看護理論について大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 看護に関連する法や教育制度について大まかに説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 基本的な看護の機能と役割について大まかに把握できる。(人間科学的・社会医学的知識) 6. 看護活動に関する基礎的概念(看護過程、安全、看護管理ほか)について大まかに説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 7. 保健医療福祉システムとチーム医療について大まかに説明できる。(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 8. 看護職に求められる倫理観について、大まかに説明できる。(倫理観、自律性)
人間関係論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	本科目では、ケアの対象を包括的に捉え、対象者および関係者との良好な人間関係を築くための幅広い専門的知識を習得する。これには関連学問領域の知識を含み、効果的な支援を実施するための自己理解・他者理解、コミュニケーションに関する知識と技術を、講義や演習等を通して学ぶ。	1. あらゆる健康状態にあるケアの対象の把握のために必要な幅広い知識を習得し、その活用について自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 自己理解・他者理解を深めるための方法を習得し、その活用について自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 建設的なコミュニケーションに関する知識と技術を習得し、その活用について自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 専門職と社会人として貢献するために、学習内容を活用する方法について、自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 専門職として、援助の対象への尊厳と権利の擁護に基づいた援助関係について、自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性)	1. あらゆる健康状態にあるケアの対象の把握のために必要な幅広い知識を習得し、その基本的な内容を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 自己理解・他者理解を深めるための方法を習得し、その基本的な内容を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 建設的なコミュニケーションに関する知識と技術を習得し、その基本的な内容を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 専門職や社会人として貢献するための学習内容を活用する方法について自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 専門職として、援助の対象への尊厳と権利の擁護に基づいた援助関係について意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性)
ふれあい実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	特別介護老人ホーム、訪問看護ステーション、助産所、乳児院、認知失調継続事業所など病院以外の支援現場での体験、並びに住民・当事者活動へ参加を通して、看護の場の広がりや生活者の豊かさを理解するとともに、従事者・住民・利用者に接する際に求められる基本的な態度を修得する。	1. 実習施設を規定している制度、並びに実習施設の機能について、多様な資料を用いて探索し、説明することができる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 2. 従事者・住民・利用者に快く受け入れられる、実習生としての社会性・倫理観を醸成した態度をとることができる。(コミュニケーション能力・看護技術)(倫理観、自律性) 3. 人々の暮らしや地域の諸資源の活用・交流に深い関心を抱き、質問や意見を発することができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 4. グループ活動を通して、生活、生活者、地域、資源など重要概念に対する理解を深め、学修成果を共有することができる。(人間科学的・社会医学的知識)(チームワーク、リーダーシップ)	1. 実習施設を規定している制度、並びに実習施設の機能を説明できる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 2. 従事者・住民・利用者を受け入れられる、実習生としての基本的態度をとることができる。(コミュニケーション能力・看護技術)(倫理観、自律性) 3. 人々の暮らしや資源の関心に関心を持って、相手の話を聞くことができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 3. グループ活動を通して、生活、生活者、地域、資源など重要概念に対する理解を深めることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(チームワーク、リーダーシップ)
看護英語	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	看護・医療に関連する様々な場面において使用される英語表現について、基本的な知識とコミュニケーション能力を修得する。	1. 看護・医療に関する英語表現を使い、コミュニケーションができるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 英語で話す力・書く力・聴く力を修得し、医療現場に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 看護実践の基盤として看護英語を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(コミュニケーション能力、看護技術)	1. 看護・医療に関する英語表現を使い、初歩的なコミュニケーションができるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 英語で話す力・書く力・聴く力を修得し、医療現場に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 看護実践の基盤として看護英語を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(コミュニケーション能力、看護技術)
看護倫理	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	看護職としての倫理的意志決定や看護実践の現場における倫理的諸問題の解決に必要な基礎的知識や理論を学ぶ。具体的には、看護倫理の歴史的背景、概念、倫理をめぐる諸課題、倫理の行動基準、看護職の倫理観、専門職務、アドボカシー、看護職の倫理のシナジー等について修得する。授業においては、看護実践の現場から提起される倫理的課題、他職種間の倫理調整についての事例を取り上げ、倫理的諸課題に対する対処法や解決法を検討し、考察する。	1. 看護倫理の歴史的背景について説明できるようになる。(倫理観・自律性) 2. 倫理に関する諸論について理解できるようになる。(倫理観・自律性) 3. 倫理的な意思決定、看護職の倫理観について説明できるようになる。(倫理観・自律性) 4. 専門職の責務、アドボカシーについて説明できるようになる。(倫理観・自律性) 5. 看護実践の基盤として看護倫理を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(倫理観・自律性)	1. 看護倫理の歴史的背景について概観説明できるようになる。(倫理観・自律性) 2. 倫理に関する諸論について概観理解できるようになる。(倫理観・自律性) 3. 倫理的な意思決定、看護職の倫理観について概観説明できるようになる。(倫理観・自律性) 4. 専門職の責務、アドボカシーについて概観説明できるようになる。(倫理観・自律性) 5. 看護実践の基盤として看護倫理を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(倫理観・自律性)
保健医療福祉行政論I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	社会保障の定義、体系、目的を学び、社会保障のうち特に、医療保険制度、介護保険制度、障害者支援制度、難病対策、生活保護制度等の意義、目的、基本的な枠組みを学ぶ。また、わが国の公衆衛生行政のしくみと役割、実務体制について学習する。合わせて、わが国の社会保障の課題と看護職の役割を検討する。	1. 社会保障に関する基礎的な知識を具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 主要な社会保障制度の枠組みと課題について具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生行政のしくみと役割、実務体制に関する基礎的な知識を具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 社会保障における看護職の役割を説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 看護実践の基盤として保健医療福祉行政論を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を具体的に述べるとともに、主体的に学習を進めることができる(研究能力・自己研鑽)	1. 社会保障に関する基礎的な知識を具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 主要な社会保障制度の枠組みと課題について、基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生行政のしくみと役割、実務体制に関する基礎的な知識を具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 社会保障における看護職の役割を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 看護実践の基盤として保健医療福祉行政論を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を述べることができる(研究能力・自己研鑽)
保健医療福祉行政論II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	4	2	事例を通じて、保健医療福祉の事業化、施策化に向けて必要な情報を収集し、根拠並びに法制度や地域・組織の基本方針・計画に基づき、事業計画や施策案を策定・実施・評価する方法について学習する。また、事例の健康課題に対して活用できる既存の社会資源を明確にし、これを活用、評価する方法について学習するとともに、地域の特性とニーズに応じて新たな社会資源を開発する方法について学習する。	1. 事業化・施策化に向けて必要な情報を収集し、その必要性を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 地域の特長・ニーズ並びに法制度や地域・組織の基本方針・計画に照らしながら、事業計画や施策案並びに評価案を策定する方法について説明できる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 立案した事業計画について、関係部署・機関と協議、連携しながら、安全に進行管理する方法について理解し、具体的に説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(チームワーク・リーダーシップ) 4. 健康課題に対して活用できる既存の社会資源とその課題、並びに新たな社会資源開発の必要性について説明することができる。(社会資源の活用・開発)(研究能力、自己研鑽) 5. 健康課題に対して必要な社会資源を活用し、評価する方法について説明できる。(社会資源の活用・開発)(研究能力、自己研鑽) 6. 地域のニーズと特性に応じて、関係する機関や地域の人々と連携・協働しながら、新たな社会資源を開発する方法について説明できる。(社会資源の活用・開発)(研究能力、自己研鑽)(チームワーク・リーダーシップ)	1. 事業化・施策化に向けて必要な情報を収集し、その必要性を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 地域の特長・ニーズ並びに法制度や地域・組織の基本方針・計画に照らしながら、事業計画や施策案並びに評価案を策定する方法について、概観説明できる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 立案した事業計画について、関係部署・機関と協議、連携しながら、安全に進行管理する方法について理解できる。(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(チームワーク・リーダーシップ) 4. 健康課題に対して活用できる既存の社会資源とその課題、並びに新たな社会資源開発の必要性について概観説明することができる。(社会資源の活用・開発)(研究能力、自己研鑽) 5. 健康課題に対して必要な社会資源を活用し、評価する方法について説明できる。(社会資源の活用・開発)(研究能力、自己研鑽) 6. 地域のニーズと特性に応じて、関係する機関や地域の人々と連携・協働しながら、新たな社会資源を開発する方法について概観説明できる。(社会資源の活用・開発)(研究能力、自己研鑽)(チームワーク・リーダーシップ)
多職種連携論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	保健医療福祉分野において多職種連携が必要となる社会的背景、看護職が連携する様々な職種との役割・機能について理解を深めるとともに、多職種連携の展開方法と実際について理解する。また、看護実践における多職種連携の重要性や多職種連携における看護職の役割について理解する。	1. 看護実践における多職種連携の重要性について述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 2. 看護職が連携する様々な職種の基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3. 多職種連携における看護職の専門的な役割について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)	1. 看護実践における多職種連携について基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 2. 看護職が連携する様々な職種の基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3. 多職種連携における看護職の役割について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)
保健統計	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	公衆衛生の各分野に関連する保健統計の指標と基準となる調査について学習する。また、公衆衛生の各分野における健康水準の変遷と施策がどのように関連しているのかについて学習する。	1. 人口静態・動態統計の指標と基準調査について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た健康水準の変遷について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た健康水準変遷が我が国の現状について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 看護実践の基盤として保健統計を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 人口静態・動態統計の指標について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た健康水準の変遷について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た健康水準変遷が我が国の現状について概観説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 看護実践の基盤として保健統計を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
看護統計	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	科学的な根拠に基づく看護（EBN：Evidence Based Nursing）を実現するために、統計学は必須のものである。医療現場で求められる統計と、記述統計、推測統計、統計手法の活用法、結果の解釈について学習する。加えて、3年次の「卒業研究」、4年次の「卒業研究」に求められる基礎的能力を身につけるものである。	1. 医療情報の活用法、サンプリングにつき説明できるようになる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 統計の種類、解釈、解釈につき説明できるようになる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. 看護実践の基盤として統計学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。（研究能力・自己研鑽）	1. 医療情報の活用法、サンプリングにつき概ね説明できるようになる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 統計の種類、解釈、解釈につき概ね説明できるようになる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. 看護実践の基盤として統計学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。（研究能力・自己研鑽）
疫学I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	集団における健康課題の原因となる環境因子との関係を特定する疫学の基礎を学習する。また、感染対策を通じて、疫学調査の看護実践への活用法について学習する。	1. 疫学の調査方法、指標、推論法について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 疾病のスクリーニングの方法と指標について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. 感染対策における疫学調査の実施方法とデータの活用法について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 4. 看護実践の基盤として疫学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。（研究能力・自己研鑽）	1. 疫学の調査方法、指標、推論法について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 疾病のスクリーニングの方法と指標について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. 感染対策における疫学調査の実施方法とデータの活用法について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 4. 看護実践の基盤として疫学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。（研究能力・自己研鑽）
疫学II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	疫学で学習した疫学の基礎を踏まえ、人口統計統計、人口動態統計、各種保健統計から、集団の健康状態を査定し、課題を明らかにする方法を学習する。	1. 各種統計資料等から、集団の健康状態を査定する方法を習得する。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力・自己研鑽） 2. 特定集団の健康課題や疾病と関連要因の因果関係を推論するプロセスについて説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力・自己研鑽） 3. 公衆衛生看護活動において、疫学的手法を習得する意義について考えることができる。（研究能力・自己研鑽）	1. 各種統計資料等から、集団の健康状態を査定する方法について概ね習得する。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力・自己研鑽） 2. 特定集団の健康課題や疾病と関連要因の因果関係を推論するプロセスについて概ね説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力・自己研鑽） 3. 公衆衛生看護活動において、疫学的手法を習得する意義について考えることができる。（研究能力・自己研鑽）
基礎看護技術論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護実践に共通する看護技術の原理原則として、援助的人間関係の形成に必要な知識・技術・態度・安全・安楽について学ぶ。援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を習得できるようにすること。感染予防の原理原則としてのスタンダードプリコーションが実施できるようにすること、基本的な身体を使い方として、ゴディメカニクスが習得できるようにすること、患者の尊厳確保を整える技術を身につけることを目標とする。	1. 援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を習得できる。（コミュニケーション能力・看護技術） 2. 衛生の手洗い、擦式手指消毒法、個人防護具の着脱が人で実施できる。（コミュニケーション能力・看護技術） 3. 臨床現場での正否手洗動、正否手洗動をゴディメカニクスを活用して実施できる。（コミュニケーション能力・看護技術） 4. 臨床現場での正否手洗動が実施できる。（コミュニケーション能力・看護技術） 5. ゴディメカニクスの基本原理のうち8項目を説明できる。（コミュニケーション能力・看護技術）	1. 援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を述べることができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 2. 助言を得る衛生の手洗い、擦式手指消毒法が人で実施できる。（コミュニケーション能力・看護技術） 3. 助言を得る看護実践者の正否手洗動、正否手洗動を実施できる。（コミュニケーション能力・看護技術） 4. ベッドメイキングができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 5. ゴディメカニクスの基本原理のうち4項目述べられる。（コミュニケーション能力・看護技術）
ヘルスアセスメント論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	人間の健康問題について、主観的情報および客観的情報に基づき総合的にアセスメントし、健康にかかわる問題を明らかにするプロセスを学ぶ。看護におけるヘルスアセスメントの意義を説明できるようにすること、患者の身体面・心理面・社会面の状態を明らかにするためのデータ収集・整理・分析を学習すること、呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが実施できるようにすることを目指す。	1. ヘルスアセスメントとは何かを説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが実施できる。（アセスメント力、実践力） 3. 演習で実施したフィジカルアセスメントの結果を適切に記録し、アセスメントできる。（アセスメント力、実践力） 4. バイタルサイン測定が実施できる。（アセスメント力、実践力）	1. ヘルスアセスメントとは何かを助言を受けて説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが助言を受けて実施できる。（アセスメント力、実践力） 3. 演習で実施したフィジカルアセスメントの結果を適切に記録できる。（アセスメント力、実践力） 4. 血圧測定が実施できる。（アセスメント力、実践力）
看護過程展開論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	看護実践において基本となる看護過程の展開について理解する。対象の健康問題を解決するために必要な、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価の基本となる一連のプロセスについて「問題解決思考と行動」を軸とした理解し、実践できるようにする。また、看護過程を支える様々な看護理論についても理解を深め、対象の置かれた状況や場面に応じた、適切な看護過程を活用して看護過程が展開できるよう演習を通して学ぶ。	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスおよびアセスメントの構造を述べることができる。（アセスメント力、実践力） 2. 看護実践における看護過程を用いる意義のうち、3つを説明することができる。（アセスメント力、実践力） 3. 問題解決過程でクリティカルシンキング、情報的分析法、倫理的判断等、看護過程の基盤となる考え方を他者に説明できる。（アセスメント力、実践力） 4. 事例の看護過程の展開が実施できる。（アセスメント力、実践力）	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを助言を受けて述べることができる。（アセスメント力、実践力） 2. 看護実践における看護過程を用いる意義を助言を受けて述べることができる。（アセスメント力、実践力） 3. 助言を受けて、問題解決過程でクリティカルシンキング、情報的分析法、倫理的判断等、看護過程の基盤となる考え方を述べることができる。（アセスメント力、実践力） 4. 助言を受けながら事例の看護過程の展開ができる。（アセスメント力、実践力）
日常生活援助技術論I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護の対象者が健康状態に応じた日常生活を営めるよう、「活動と休息」「食事」の日常生活行動に関する欲求を充足する援助に必要な基本的知識・技術・態度を、講義および演習を通して身につける。演習ではグループメンバーが患者・看護師役取りながら模擬病棟で援助技術を実施する。	1. 活動と休息を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる。（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 2. 活動と休息を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ゴディメカニクス・倫理・安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施することができる。（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 3. 食事を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる。（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 4. 食事を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ゴディメカニクス・倫理・安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施することができる。（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 5. 紙上患者の活動と休息、栄養と食事に関する情報を論理的思考を用いて解釈・判断し、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。（DP7.アセスメント力、実践力） 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと意見交換し、協同して演習に参加することができる。（DP10.チームワーク、リーダーシップ）	1. 活動と休息についての基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には至っていないが、関連する用語は述べられる。（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 2. 活動と休息を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ゴディメカニクス・倫理・安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 3. 栄養と食事を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には至っていないが、関連する用語は述べられる。（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 4. 栄養と食事を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ゴディメカニクス・倫理・安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 5. 紙上患者の活動と休息、栄養と食事に関する情報を論理的思考を用いて概ね解釈・判断し、不十分ではあるが根拠に基づいた看護援助を計画することができる。（DP7.アセスメント力、実践力） 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと話し、不十分ではあるが協同して演習に参加することができる。（DP10.チームワーク、リーダーシップ）
日常生活援助技術論II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護の対象者が健康状態に応じた日常生活を営めるよう、「清潔」「排泄」の日常生活行動に関する欲求を充足する援助に必要な基本的知識・技術・態度を、講義および演習を通して身につける。演習ではグループメンバーが患者・看護師役取りながら模擬病棟で援助技術を実施する。	1. 清潔を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 2. 清潔を整えるための看護援助を、コミュニケーション、ゴディメカニクス、倫理、安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施できる。（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 3. 自然な排泄を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 4. 自然な排泄を整えるための看護援助を、コミュニケーション、ゴディメカニクス、倫理、安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施できる（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 5. 紙上患者の排泄、清潔に関する情報を論理的思考を用いて統合して解釈・判断し、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。（DP7.アセスメント力、実践力） 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと意見交換し、協同して演習に参加することができる。（DP10.チームワーク、リーダーシップ）	1. 清潔を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には至っていないが、関連する用語は述べられる。（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 2. 清潔を整えるための看護援助を、コミュニケーション、ゴディメカニクス、倫理、安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる。（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 3. 自然な排泄を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には至っていないが、関連する用語は述べられる。（DP1.自然科学的・臨床医学的知識） 4. 自然な排泄を整えるための看護援助を、コミュニケーション、ゴディメカニクス、倫理、安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる。（DP5.コミュニケーション能力・看護技術） 5. 紙上患者の清潔、排泄に関する情報を論理的思考の活用は不十分であるが解釈・判断し、不十分ではあるが根拠に基づいた看護援助を計画することができる。（DP7.アセスメント力、実践力） 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと話し、不十分ではあるが協同して演習に参加することができる。（DP10.チームワーク、リーダーシップ）
医療支援技術論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護の対象が診察を受けるための治療処置（無菌的操作、吸引、静脈療法、経管栄養、導尿、洗滌など）の援助について学ぶ。演習を通して、状況判断や根拠のある看護の提供できるよう、正確な基礎看護技術の修得を目指す。	1. 感染予防技術の基本的知識を、科学的な根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 感染予防策として、滅菌物の取り扱い、個人防護具の使用を実践操作で実施することができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 3. 呼吸や循環を整える援助技術を、科学的な根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 4. 栄養や排泄を整える援助技術を、科学的な根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 5. 自然な排泄が困難な模擬患者に必要な導尿を、根拠に基づき実施することができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 6. 援助的コミュニケーションをとりながら、模擬患者の安全や焦熱心に配慮することができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 7. グループワークの意見交換を通して、協同的態度で安全な診療補助技術を積極的に考えることができる。（チームワーク、リーダーシップ）	1. 感染予防技術の基本的知識を、助言を受けながら科学的な根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 感染予防策として、滅菌物の取り扱い、個人防護具の使用を助言を受けながら実践操作で実施することができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 3. 呼吸や循環を整える援助技術を、助言を受けながら科学的な根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 4. 栄養や排泄を整える援助技術を、助言を受けながら科学的な根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 5. 自然な排泄が困難な模擬患者に必要な導尿を、助言を受けながら根拠に基づき実施することができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 6. 援助的コミュニケーションをとりながら、模擬患者の安全や焦熱心への配慮に助言を受けて気づくことができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 7. グループワークの意見交換を通して、協同的態度で安全な診療補助の技術を考えることができ、助言を受けてできる。（チームワーク、リーダーシップ）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
医療支援技術論I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	看護の対象が安全に安心して診療を受けるための検査・診断、治療、治療効果の援助について学ぶ。演習（採血、注射など）を通して、状況判断や観察のある看護が提供できるよう、正確な基礎看護技術の修得を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査に必要な医療支援技術を、科学的根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 主な検体の採取および取り扱いを正確かつ安全に実施する方法を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 3. 静脈血採血、基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 薬物療法における看護師の役割と責任を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 5. 与薬の経路と正確かつ安全に与薬する基本的方法を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 6. 皮下注射と筋肉内注射及び点滴静脈内注射を、基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 7. 演習で対象の尊厳と権利を確保し、援助的コミュニケーションをとりながら、関わる事ができる。（コミュニケーション能力・看護技術） 8. グループワークを通して、協調的態度で安全かつ安楽な診療補助の技術が実践できる。（チームワーク、リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査に必要な医療支援技術を、助言を受けながら科学的根拠に基づき述べることができる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 主な検体の採取および取り扱いを正確かつ安全に実施する方法を助言を受けながら説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 3. 静脈血採血を、助言を受けながら基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 薬物療法における看護師の役割と責任を助言を受けながら説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 5. 与薬の経路と正確かつ安全に与薬する基本的方法を助言を受けながら説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 6. 皮下注射と筋肉内注射及び点滴静脈内注射を、助言を受けながら基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 7. 演習対象を尊重し、援助的コミュニケーションをとりながら関わる事ができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 8. グループワークを通して、協調的態度で安全な診療補助の技術の必要性に助言を受けて気づくことができる。（チームワーク、リーダーシップ）
基礎看護学実習I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	この科目では、看護職や看護の頃の身学・体験を通じて、看護の役割や機能について理解する。また、対象の権利を擁護する重要性を認識し、コミュニケーション能力や看護技術の向上が必要であることを学ぶ。これにより、看護実践者としての基礎を築くことを目的としている。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の役割と機能を正確に記述することができる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 看護職の役割と機能について具体的に記述することができる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. コミュニケーション能力および安全で安心できる看護技術の必要性について表現できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 看護の必要性を理解し、自己の課題を示すことができる。 5. 対象への倫理的配慮を理解し、実際の行動に移すことができる。（倫理的、自律性） 6. 自律的な学習態度を身につけ、看護職として求められる基本的な態度を習得し、不足を指摘されることが少ない。（倫理的、自律性） 7. 実習グループのメンバーと協働し、実習目標の達成に向けて主体的に行動できる。（チームワーク、リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職の役割と機能を記述できるが不足が目立つ。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 看護職の役割と機能について記述できるが不足が多い。（人間科学的・社会医学的知識） 3. コミュニケーション能力および安全で安心できる看護技術の必要性について表現することができるが、不足も多い。（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 看護の必要性を理解し、自己の課題を示すことができるが、一面であることが多い。 5. 対象への倫理的配慮について理解し、支援を得ながら行動に移すことができる。（倫理的、自律性） 6. 自律的な学習態度を身につけようとする努力が不足を指摘されることが多い。（倫理的、自律性） 7. 実習グループのメンバーと協働し、実習目標を達成できるような努力ができるが、主体性に欠けることがある。（チームワーク、リーダーシップ）
基礎看護学実習II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	この科目では、さまざまな健康障害を抱える入院患者を受け持ち、総合的な視点で対象者を理解する。看護過程期間の考え方に基き、対象者の権利を擁護しつつ、適切なコミュニケーションを駆使して、安全で安心な看護の必要性を学ぶ。これにより、看護実践に必要な基礎的能力の向上を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最小限の支援を得ながら、さまざまな健康障害をもつ対象者の健康上の課題をアセスメントできる。（アセスメント力、実践力） 2. 最小限の支援を得ながら、論理的な思考過程を他者にわかりやすく表現できる。（アセスメント力、実践力） 3. 最小限の支援を得ながら、科学的根拠に基づく看護を理解し、対象に応じたコミュニケーションと対应的かつ安全な援助を実施できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 最小限の支援を得ながら、簡潔で的確な報告・連絡・相談ができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 5. 最小限の支援を得ながら、対象への倫理的配慮を實踐できる。（倫理的、自律性） 6. 支援を得ずとも、自律的な学習態度と看護学生としてふさわしい態度を身につけている。（倫理的、自律性） 7. 実習グループのメンバーと協働し、実習目標の達成に向けて主体的に行動できる。（チームワーク、リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. かなりの支援を得ながら、さまざまな健康障害をもつ対象者の健康上の課題についてアセスメントできるが、不足も多い。（アセスメント力、実践力） 2. かなりの支援を得ながら、論理的な思考過程を他者に表現できるが、不足が多い。（アセスメント力、実践力） 3. かなりの支援を得ながら、科学的根拠に基づく看護を理解し、対象に応じたコミュニケーションと対应的かつ安全な援助が実践できるが、不足も多い。（コミュニケーション能力、看護技術） 4. かなりの支援を得ながら、報告・連絡・相談ができるが、不足も多い。（コミュニケーション能力、看護技術） 5. かなりの支援を得ながら、対象への倫理的配慮ができるが不足を指摘されることが多い。（倫理的、自律性） 6. かなりの支援を得ずして学習課題に取り組み、看護学生として適切な態度の必要性を理解するが、不足を指摘されることが多い。（倫理的、自律性） 7. 実習グループのメンバーと協働し、実習目標を達成できるような努力ができるが主体性に欠ける。（チームワーク、リーダーシップ）
地域看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	地域（コミュニティ）で生活する全ての個人・家族、集団、地域全体を支援の対象とし、多職種多機関並びに住民と協働して健康をしやすい地域づくりを行う地域看護の方法と、その基盤となる理念・理論、並びに支援方法について学習する。また、地域看護の主要な実践4領域である行政・在宅・産業・学校の特性と、各々における保健・看護活動について学習する。これらの学習を通じて地域看護学の基本となる考え方を身につけるとともに、看護実践における地域看護学の学習意義について理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の基盤となる概念、理念、理論について自分の言葉で説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（倫理的、自律性） 2. 地域看護の目的、対象並びに支援方法の特徴を自分の言葉で説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理的、自律性） 3. 地域看護の4つの活動領域の特性と共通性について自分の言葉で説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理的、自律性） 4. 地域の健康課題を分析するための情報収集の枠組みを身につけて、情報を整理してみることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（社会資源の活用・開発） 5. 自分自身が地域看護学を学習する意義を明確に述べる事ができる。（研究能力、自己研鑽） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の基盤となる概念、理念、理論について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（倫理的、自律性） 2. 地域看護の目的、対象並びに支援方法の特徴を概ね説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理的、自律性） 3. 地域看護の4つの活動領域の特徴と共通性について概ね説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理的、自律性） 4. 地域の健康課題を分析するための情報収集の枠組みを理解し、情報を整理してみることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（社会資源の活用・開発） 5. 自分自身が地域看護学を学習する意義を一つあげることができる。（研究能力、自己研鑽）
地域看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	千代田区の特定地域を対象とし、既存資料の分析、地区調査、キーパーソンのインタビューを通じて、地域の特性と健康課題をアセスメントする地域看護診断の方法を実践的に修得するとともに、住民や多職種多機関と連携しながら課題に応じた支援を行う計画立案に必要な基礎的能力を修得する。また、演習全体を通じて、人々のQOL・健康と地域のサステナブルの関係、並びに住民・多機関と連携して行う地域看護の役割について実践的に理解を深めるとともに、自身の目指すリーダーシップを成長させると目指す。	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・コアが、地域生活の中で目指す点について、具体的に述べる事ができる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. コミュニティ・コアと、それを取り巻くサステナブルの関係について、既存資料、地区調査、インタビューから情報を収集し、アセスメントすることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 3. コミュニティ・コアの目指す点と現状のギャップから、地域の健康課題を具体化し、地域の特徴を踏まえた改善案を提案することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 4. 地域看護診断の結果と改善策について、論理的な結びつきを明確にしながら発表・質疑応答を行うことができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 5. 演習全体を通じて実践的に理解を深め、人々のQOL・健康と地域のサステナブルの関係、並びに住民・多機関と連携して行う地域看護の役割について、自身の言葉で述べる事ができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 6. 演習全体を通じて、チームの状況を踏まえつつ、自身の目指すリーダーシップを成長させることができる。（チームワーク、リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ・コアが、地域生活の中で目指す点について、自分なりに述べる事ができる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. コミュニティ・コアと、それを取り巻くサステナブルの関係について、既存資料、地区調査、インタビューから情報を収集し、大まかに捉えることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 3. コミュニティ・コアの目指す点と現状のギャップから、地域の健康課題を捉え、自分なりに改善案を提案することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 4. 地域看護診断の結果と改善策について、発表・質疑応答を行うことができる。（コミュニケーション能力、看護技術） 5. 演習全体を通じて実践的に理解を深め、人々のQOL・健康と地域のサステナブルの関係、並びに住民・多機関と連携して行う地域看護の役割について、概ね自身の言葉で述べる事ができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 6. 演習全体を通じて、自身の目指すリーダーシップを成長させるような努力ができる。（チームワーク、リーダーシップ）
在宅看護概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	在宅療養者と家族の生活の質の向上を支える看護実践の基盤となる、在宅看護の概念や特性、理念、対象となる療養者・家族と地域社会の関係性、対象を支える社会資源の役割、並びに地域包括ケアシステムについて学習する。また、在宅看護の援助の基本となるケアマネジメント及び継続看護・退院支援、さらに、在宅看護の倫理を学習することにより、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について考察する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケア・在宅看護を取り巻く社会的背景を踏まえ、在宅看護学を学習し、看護実践に活用する意義が理解できる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 在宅看護の理念について、対象と実践の特質と結びつけて考察し、説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. 在宅療養を支える制度や社会資源を活用しながら在宅療養者とその家族を支える基盤となるケアマネジメントの基礎が説明できる。（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 4. 在宅看護の倫理の特質を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解し、自己の考えを述べる事ができる。（倫理的、自律性） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケア・在宅看護を取り巻く社会的背景を踏まえ、在宅看護学を学習し、看護実践に活用する意義が理解できる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 在宅看護の理念について、対象と実践の特質と結びつけることができる。（人間科学的・社会医学的知識） 3. 在宅療養を支える制度や社会資源を活用しながら在宅療養者とその家族を支える基盤となるケアマネジメントの基礎が理解できる。（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 4. 在宅看護の倫理の特質を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解することができる。（倫理的、自律性）
在宅看護援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	疾病や障害を持ちながら地域で暮らす在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、生活の質を維持・向上するための基本的な支援方法（食事・排泄・清潔・移動等）の日常生活行動の支援および医療的支援）について、アセスメントおよび多職種連携・社会資源活用を含めて学習する。また、在宅看護において特徴的な対象や状況を取り上げ、支援の展開方法を学習する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者を生活者として捉えるための視点と1単位としての家族のアセスメントと援助方法を具体的に述べる事ができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 2. 在宅療養における食事・排泄・清潔・移動等の日常生活行動および医療的ケアに関するアセスメントと援助方法を具体的に述べる事ができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 3. 在宅療養者の呼称に関する医療的ケアの具体的な方法を述べることができるとともに、在宅療養者の立場から生活上の困難を察知、必要な支援を提案できる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 4. 在宅療養児や終末期等の在宅看護において特徴的な対象や状況について、対象の特性に合わせた看護の特性と援助方法を具体的に述べる事ができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者を生活者として捉えるための視点と1単位としての家族のアセスメントと援助方法について基本的事項を述べることができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 2. 在宅療養における食事・排泄・清潔・移動等の日常生活行動および医療的ケアに関するアセスメントと援助方法について基本的事項を述べることができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 3. 在宅療養者の呼称に関する医療的ケアの方法について基本的事項を述べることができるとともに、在宅療養者の立場から生活上の困難を察知することができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 4. 在宅療養児や終末期等の在宅看護において特徴的な対象や状況について、対象の特性に応じた看護の特性と援助方法を基本的事項を述べることができる。（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
在宅看護援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	1	在宅看護の看護過程と看護ケア及びケアマネジメントを展開する方法について、在宅看護の代表的な対象の特性と発達段階を踏まえたアセスメント、支援・評価計画立案の一連のプロセスを学習する。また、在宅看護における家庭訪問技術、コミュニケーション技術の基本を修得し、在宅看護とケアマネジメントの実践方法への理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、必要な情報を収集し、アセスメントが実施し、説明することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、看護ケアとケアマネジメントの実施計画並びに評価計画を立案し、説明することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 3.訪問看護における家庭訪問及びコミュニケーション技術の基本を習得することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4.在宅看護とケアマネジメント実践の原則と方法への理解を深め、療養者・家族を支援するチームメンバーとその役割を具体的に説明できる。さらに、チーム全体の機能とチーム内での看護職の役割を考察することができる。(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、必要な情報を収集し、アセスメントが実施できる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、看護ケアとケアマネジメントの実施計画並びに評価計画を立案することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 3.訪問看護における家庭訪問及びコミュニケーション技術の基本を習得することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4.在宅看護とケアマネジメント実践の原則と方法への理解を深め、療養者・家族を支援するチームメンバーを駆りることができる。(アセスメント力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽)
公衆衛生看護展開論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	2	地域で生活する個人・家族・集団のライフサイクルと健康課題に応じた公衆衛生看護の展開方法について学習し、各分野で展開される保健福祉事業とその法的根拠について理解する。加えて、個人・家族の主要な支援技術として、健康診査と家庭訪問の基本的技術を修得し、その展開方法について説明できるようにすることを目標とする。	<ol style="list-style-type: none"> 1.公衆衛生看護の各分野で展開される公衆衛生看護活動と法律・施策の関係について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.公衆衛生看護活動における保健所と市町村の役割について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3.健康診査・家庭訪問における基本的技術を修得する。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 3.健康診査・家庭訪問から施設支援を展開する方法について説明することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 5.個人・家族の支援と、集団支援、地域支援の関係について、具体例をあけて説明することができる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽) 6.公衆衛生看護活動において、保健師に求められる姿勢、態度について考えることができる。(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.公衆衛生看護の各分野で展開される公衆衛生看護活動と法律・施策の関係について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.公衆衛生看護活動における保健所と市町村の役割について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3.健康診査・家庭訪問における基本的技術を概ね修得する。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 3.健康診査・家庭訪問から施設支援を展開する方法について概ね説明することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 5.個人・家族の支援と、集団支援、地域支援の関係について、説明することができる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽) 6.公衆衛生看護活動において、保健師に求められる姿勢、態度について考えることができる。(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽)
地域在宅看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3・4	2	地域看護学の重要な実践分野である、在宅と地域(公衆衛生)における看護実践を通じて、地域看護実践に必要な基礎的能力と態度を身につけるとともに、地域看護の特質について体系的に理解を深める。 実習は、訪問看護ステーション実習4日間、地域包括支援センター実習4日間、学内実習2日間で開催される。詳細は実習要項に記載する。	<ol style="list-style-type: none"> 1.訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.訪問看護師が多職種・多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて説明できる。(多職種・多機関連携)(コミュニケーション能力、看護技術) 3.在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアアセスメントを査定し、説明することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 4.在宅療養者のセルフケア能力(セルフケア行動力)と介護者の介護力や社会資源によるサポート(状況依存的ケア行動力)を把握し、満たされない治療的セルフケアアセスメント(セルフケア不足)を査定し、説明することができる。(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携) 5.看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアアセスメント(セルフケア不足)に対して行うべき看護ケアの種類(代行、指導、教育、支持、環境調整)とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を計画し、説明することができる。(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 6.在宅ケアにおける訪問看護師の役割を理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。(倫理観、自律性) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.訪問看護師が多職種・多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて説明できる。(多職種・多機関連携) 3.在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアアセスメントを査定することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4.在宅療養者のセルフケア能力(セルフケア行動力)と介護者の介護力や社会資源によるサポート(状況依存的ケア行動力)を把握し、満たされない治療的セルフケアアセスメント(セルフケア不足)を査定することができる。(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携) 5.看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアアセスメント(セルフケア不足)に対して行うべき看護ケア(看護行動)の種類(代行、指導、教育、支持、環境調整)とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を計画することができる。(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 6.在宅ケアにおける訪問看護師の役割を理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。(倫理観、自律性)
地域在宅看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3・4	2		<ol style="list-style-type: none"> 1.対象地域の特性、健康課題と展開されている事業・活動を把握し、相互の関係について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.健康増進・生きがいづくり、介護予防を必要とする高齢者を対象とした事業の実際に触れ参加者のあるニーズ・健康課題について理解する。また事業内容、支援方法、支援者の態度、連携・協働する機関・人々を把握し、それらの意味・意義について述べることができる。(アセスメント力、実践力) 3.個別の支援を必要とする高齢者に対する支援活動に触れ、対象者のニーズ・健康課題をアセスメントする支援者の視点を理解する。また支援方法、支援者の態度、連携・協働する機関・人々を把握し、それらの意味・意義について概ね述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携) 4.自ら支援を求めない高齢者に対する支援活動の実際に触れ、支援者のアプローチ方法・態度、連携・協働する機関・人々の役割について述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携) 5.対象地域の地域づくりの実際に触れ、目指す地域の姿と取り組み内容を把握するとともに、地域包括支援センター並びに連携・協働する機関・人々の役割について概ね説明することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(チームワーク、リーダーシップ) 6.実習体験全体を通じて、地域包括支援センターの業務とその基盤となる法制度について体系的に理解を深めるとともに、地域における看護職の役割について概ね説明することができる。(倫理観、自律性)(研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.対象地域の特性、健康課題と展開されている事業・活動を把握し、相互の関係について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.健康増進・生きがいづくり、介護予防を必要とする高齢者を対象とした事業の実際に触れ参加者のあるニーズ・健康課題について理解する。また事業内容、支援方法、支援者の態度、連携・協働する機関・人々を把握し、それらの意味・意義について概ね述べることができる。(アセスメント力、実践力) 3.個別の支援を必要とする高齢者に対する支援活動に触れ、対象者のニーズ・健康課題をアセスメントする支援者の視点を理解する。また支援方法、支援者の態度、連携・協働する機関・人々を把握し、それらの意味・意義について概ね述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携) 4.自ら支援を求めない高齢者に対する支援活動の実際に触れ、支援者のアプローチ方法・態度、連携・協働する機関・人々の役割について述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携) 5.対象地域の地域づくりの実際に触れ、目指す地域の姿と取り組み内容を把握するとともに、地域包括支援センター並びに連携・協働する機関・人々の役割について概ね説明することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(チームワーク、リーダーシップ) 6.実習体験全体を通じて、地域包括支援センターの業務とその基盤となる法制度について体系的に理解を深めるとともに、地域における看護職の役割について概ね説明することができる。(倫理観、自律性)(研究能力、自己研鑽)
成人看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	成人期にある人々の発達課題における身体的・心理的・社会的な特徴と成人保健の動向及び健康問題について理解する。また、成人期にある人々の健康レベルに応じた看護実践のあり方について、基盤となる概念や理論を通して理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴、発達課題、特有な健康問題について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.成人期にある人々の生活と健康問題について関連づけながら説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3.成人期にある人々の健康レベルに応じた看護実践について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 4.成人期にある人々への看護の基盤となる概念や理論について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5.成人期にある人々の特徴とその看護に求められる看護師の役割を考え、自身の言葉で表現できる。(多職種・多機関連携)(倫理観、自律性) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴、発達課題、特有な健康問題について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.成人期にある人々の生活と健康問題について基本的な事項を関連づけながら説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3.成人期にある人々の健康レベルに応じた看護援助について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 4.成人期にある人々の看護の基盤となる概念や理論について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5.成人期にある人々の特徴とその看護に求められる看護師の役割を考え、自身の言葉で表現できる。(多職種・多機関連携)(倫理観、自律性)
成人看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	急性期の健康問題をもつ成人へ看護を実践するために、急性な健康障害の発症により生命の危機状態にある対象者への理解を深め、回復や生活の再構築を促す看護援助について理解する。具体的には、用手術前後看護・クリティカルケア看護を取り上げ、事例をもとに対象者に必要な看護について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康レベルが急変し、生命の危機状態にある対象者の特徴について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.急性期の健康問題と対象者の心身へ及ぼす影響について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 3.回復を促進し、生活の再構築を促すための専門的看護援助について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(コミュニケーション能力、看護技術) 	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康レベルが急変し、生命の危機状態にある対象者の特徴について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 2.急性期の健康問題と対象者の心身へ及ぼす影響について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 3.回復を促進し、生活の再構築を促すための専門的看護援助について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(コミュニケーション能力、看護技術)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
成人看護学援助論Ⅱ	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	成人期にある慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケアに向けた看護を提供するために、対象となる人々とその家族の身体・心理・社会的特徴について理解する。また、対象となる人々とその家族に応じた看護実践を行うために必要な概念や理論の活用方法について学習する。	1.慢性疾患およびがんをもつ人の身体・心理・社会的特徴を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 2.慢性疾患およびがんをもつ人が受ける治療と看護の特徴を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 3.慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケアの確立に向けた援助の必要性と方法について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（社会資源の活用・開発） 4.慢性疾患およびがんをもつ人への支援における多職種連携及びチーム医療の必要性と看護師の役割を説明できる。（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 5.緩和ケアを受ける人の身体・心理・社会的特徴とその看護の特徴を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 6.慢性疾患およびがんをもつ人への看護について考え、自分の言葉で説明できる。（倫理観、自律性）	1.慢性疾患およびがんをもつ人の身体・心理・社会の特徴について、基本的な事項を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 2.慢性疾患およびがんをもつ人が受ける治療と看護の特徴について、基本的な事項を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 3.慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケア確立に向けた援助の必要性と方法について、基本的な事項を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 4.慢性疾患およびがんをもつ人への支援における多職種連携及びチーム医療の必要性と看護師の役割について、基本的な事項を説明できる。（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 5.緩和ケアを受ける人の身体・心理・社会的特徴とその看護の特徴について、基本的な事項を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 6.慢性疾患およびがんをもつ人への看護について基本的な事項を説明できる。（倫理観、自律性）
成人看護学援助演習Ⅰ	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	急激な健康障害の発症により、生命の危機状態にある対象者に必要な看護を実践するための援助技術を習得する。具体的には、事例を通して、急性期の健康問題をもつ成人の看護過程を展開するための知識・技術について理解する。	1.急性・回復の状況にある成人の特徴について、両手両脚の段階ごとに説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 2.急性期の健康問題をもつ対象者の看護過程を展開することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 3.急性期の健康問題をもつ対象者の特性に応じた看護技術を習得することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ）	1.急性・回復の状況にある成人の特徴について、両手両脚の段階ごとに基本的な事項を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 2.急性期の健康問題をもつ対象者の基本的な看護過程を展開することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 3.急性期の健康問題をもつ対象者の特性に応じた基本的な看護技術を習得することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ）
成人看護学援助演習Ⅱ	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	がんや慢性疾患をもつ事例の看護過程を個人およびグループで展開することにより、対象の病態と治療並びに対象の生活を考慮した看護計画を立案し提供するための思考プロセスを習得する。また、慢性疾患やがんをもつ事例を想定したシミュレーションを用いたモシタリングプログラムやアセスメント等の技術演習に加え、患者体験や看護職員のロールプレイングなどグループワークを用いた演習を通して、対象のセルフケアの確立に向けた援助について理解を深める。	1.慢性疾患もしくはがんをもつ人の身体状況とその原因、疾患及び治療による生活への影響について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 2.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題について、科学的根拠と対象のニーズを基に抽出できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を解決するための思考プロセスを、科学的根拠と対象のニーズを基に説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 4.慢性疾患もしくはがんをもつ人のセルフケアの確立に向けた個別性のある援助計画を立案できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 5.慢性疾患もしくはがんをもつ人のセルフケアの確立と生活の悩み直しに必要な社会資源、多職種連携及びチーム医療について説明できる。（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 6.セルフケアの確立に向けた援助について理解を深めるために、グループワークにおいて他者の考えを理解し、主体的な学習活動により自分の考えを言語化できる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（チームワーク、リーダーシップ）	1.慢性疾患もしくはがんをもつ人の身体状況とその原因、疾患及び治療による生活への影響を助言により説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 2.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を抽出できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を解決するための思考プロセスを説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 4.慢性疾患もしくはがんをもつ人のセルフケアの確立に向けた援助計画を立案できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 5.慢性疾患もしくはがんをもつ人のセルフケアの確立と生活の悩み直しに必要な社会資源、多職種連携及びチーム医療について説明できる。（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 6.セルフケアの確立に向けた援助について理解を深めるために、グループワークにおいて自分の役割を發揮できる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（チームワーク、リーダーシップ）
成人看護学実習Ⅰ（急性・両手両脚）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	成人期において急性および回復状態にある対象者の心身の特性や健康障害に応じた看護援助について実践を通して学習する。健康状態が急変化する急性・両手両脚にある対象者を受け持ち、一連の看護過程を展開することによって、生命の危機を回避し、回復を促進するために必要な看護実践を学ぶ。	1.急性および回復状態にある対象者の置かれている状況や影響について理解することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術） 2.急性および回復状態にある対象者の援助的人間関係を築くことができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（倫理観、自律性） 3.急性および回復状態にある対象者の治療や健康回復に特有の状況や影響を捉えながら看護過程を展開し、必要な看護援助について理解を深めることができる。（アセスメント力、実践力）（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理観、自律性）（チームワーク、リーダーシップ） 4.医療チームの一員として責任ある行動をとり、主体的に学ぶことができる。（倫理観、自律性）（チームワーク、リーダーシップ）（コミュニケーション能力、看護技術） 5.実習を通して学んだことを表現し、自己の学びと課題を明確にすることができる。（倫理観、自律性）（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（チームワーク、リーダーシップ）	1.急性および回復状態にある対象者の置かれている状況や影響について、基本的な事項を理解することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術） 2.急性および回復状態にある対象者と基本的な人間関係を築くことができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（倫理観、自律性） 3.急性および回復状態にある対象者の治療や健康回復に特有の状況や影響を捉えながら看護過程を展開し、基本的な看護援助について理解を深めることができる。（アセスメント力、実践力）（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理観、自律性）（チームワーク、リーダーシップ） 4.医療チームの一員として責任ある行動をとり、基本的な事項を学ぶことができる。（倫理観、自律性）（チームワーク、リーダーシップ）（コミュニケーション能力、看護技術） 5.実習を通して学んだことを表現し、自己の学びと課題を明確にすることができる。（倫理観、自律性）（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（チームワーク、リーダーシップ）
成人看護学実習Ⅱ（治療期）	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	がんや慢性疾患により治療を必要とする患者の身体状況と生活を理解し、病気の治癒、緩和、または重症化を予防するためのセルフケアの確立に向けた看護実践を行うために必要な基礎的能力を修得する。	1.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の身体状況とその原因について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 2.慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族の考えや思い、価値観、生活習慣および社会的役割の変化を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 3.現状コントロールしながらその人らしい生活を送るための日常生活の調整方法を、慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族、医療チームとともに考え、援助できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 4.慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族の病状や治療に対する認識や学習能力に応じた、指導の重要性を理解し、援助できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 5.退院後の生活を送るためのサポート・ネットワークと利用可能な社会資源を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 6.慢性疾患およびがんを抱える対象の体験に関心を寄せ、共感的に関わることができる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）	1.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の身体状況とその原因について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 2.慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族の考えや思い、価値観、生活習慣および社会的役割の変化について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 3.現状をコントロールしながらその人らしい生活を送るための日常生活の調整方法を立案し、援助できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 4.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の病状や治療に対する認識や学習能力に応じた指導の重要性を理解し、看護師とともに援助できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 5.退院後の生活を送るためのサポート・ネットワークと利用可能な社会資源について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 6.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の体験に関心を寄せ関わることができる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
成人看護学実習Ⅲ (予防・維持期)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	1	外来受診から入院、退院による療養の場の変化に応じながら継続的に支援する看護職の役割と他の医療専門職との連携について学ぶ。また、健康問題を抱えながら生活する人々の健康生活の維持・増進と重症化を予防するための看護職の専門性について理解するとともに、支援の場において求められる基本的な態度を修得する。	1. 健康問題を抱えながら生活する人々の保健・受診行動を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 2. 外来受診から入院、退院に至る患者を支援する看護職の役割を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 3. 外来で治療を継続する患者を支援する看護職の役割を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 4. 外来および入院支援における社会資源の活用、多職種連携と看護職の役割を説明できる。(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 5. 予防・維持期における看護の理解を深めるために、カンファレンス等において他者の考えを理解し、主体的な学習活動により自分の考えを言語化できる。(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(チームワーク、リーダーシップ)	1. 健康問題を抱えながら生活する人々の保健・受診行動について、助言により説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 2. 外来受診から入院、退院に至る患者を支援する看護職の役割について、助言により説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 3. 外来で治療を継続する患者を支援する看護職の役割について、助言により説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 4. 外来および入院支援における社会資源の活用、多職種連携と看護職の役割について、助言により説明できる。(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(チームワーク、リーダーシップ) 5. 予防・維持期における看護の理解を深めるために、カンファレンス等において他者の考えを理解し、グループ内の役割を果たせる。(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(チームワーク、リーダーシップ)
老年看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	老年期の発達課題、加齢変化、成熟する能力について総合的に学び、高齢者に対する理解を深める。また、高齢者と家族、並びに権利擁護の現状から超高齢社会の課題を概観し、高齢者がおかれている状況を把握する。これらの学習を通して、老年看護の役割を考察する。	1. 超高齢社会の特徴を、人口構成、家族形態、制度・職種の各側面から説明できる。(多職種・多機関連携) 2. 老年期の発達課題、加齢変化の身体・生理的側面、心理・精神的側面、社会的側面について、その特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識) 3. 加齢変化が高齢者の健康や生活に及ぼす影響を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 高齢者虐待及び身体拘束の現状と弊害を説明し、老年看護における権利擁護の重要性を考察できる。(倫理観、自律性) 5. 学びの統合を通して、老年看護の役割と担担者に求められる倫理的態度について、自身の言葉で表現できる。(倫理観、自律性)	1. 超高齢社会の主たる特徴を、人口構成、家族形態、制度・職種の側面から説明できる。(多職種・多機関連携) 2. 老年期の発達課題、加齢変化の身体・生理的側面、心理・精神的側面について、その特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識) 3. 加齢変化が高齢者の健康や生活に及ぼす影響を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 高齢者虐待の種類と現状、及び身体拘束の弊害を説明できる。(倫理観、自律性) 5. 老年看護に求められる役割を表現できる。(倫理観、自律性)
老年看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	加齢による心身の变化をふまえ、老年期にみられる特徴的な健康・生活面の不具合とそのアセスメント方法を理解する。その上で不具合の軽減または持てる力の維持・向上をはかる援助方法を理解する。また、健康状態や療養の場による援助の特徴について理解する。老年期特有の看護として、認知機能に不具合のある高齢者に対する援助、その人らしく生活するための援助方法を検討する。	1. 加齢変化を踏まえた高齢者の日常生活機能を把握する方法と援助方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力) 2. 認知機能に不具合のある高齢者の評価方法と援助方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 身体疾患や状況・症状群を併存させながら療養を送る高齢者の評価方法と援助方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 高齢者の入院退院の際の援助方法と多職種連携について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 5. 療養生活を送る高齢者家族への援助方法を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携) 6. エンドオブライフケアの概念、および人生の最終段階に求められる援助方法を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)	1. 加齢変化を踏まえた高齢者の日常生活機能を把握する方法と援助方法の基本事項を説明できる(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力) 2. 認知機能に不具合のある高齢者の評価方法と援助方法の基本事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 身体疾患や状況・症状群を併存させながら療養を送る高齢者の評価方法と援助方法に関する基本事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 高齢者の入院退院の際の援助方法に関する基本事項を踏まえた上で職種について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 5. 療養生活を送る高齢者家族への援助方法に関する基本事項を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携) 6. エンドオブライフケアの概念、および人生の最終段階に求められる援助方法の基本事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)
老年看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	療養生活を送る高齢者の意向と加齢変化の特徴を踏まえた看護の基盤となる病態の把握、情報整理、アセスメントを紙上事例にて実施する。紙上事例では全体像から療養生活を送る高齢者の優先的な看護課題・課題を理解する。また、加齢変化によるコミュニケーションや日常生活への影響を体験し、援助や環境調整の方法を考察する。	1. 高齢者の加齢変化の要素、既往症の結びついた病態関連図を作成できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力) 2. 療養生活を送る高齢者の身体的・心理的・社会的情報の整理とアセスメントができる。(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 3. アセスメントを統合して、高齢者の全体像を描き、看護上の課題を適切な優先順位で説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 高齢者の個別性に合わせたコミュニケーション方法を工夫できる。(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 5. 高齢者に対する日常生活援助および環境調整の方法を、加齢変化と病態に関連付けて説明できる(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 6. グループによるディスカッションや共同作業に積極的に参加する(チームワーク、リーダーシップ) 7. 演習での体験を通して老年看護実践に必要な知識、技術、態度における自己の課題を積極的に発表できる。(研究能力、自己研鑽)	1. 高齢者の加齢変化の要素や既往症の結びついた病態関連図を作成できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力) 2. 療養生活を送る高齢者の身体的・心理的・社会的情報の整理し、身体面のアセスメントができる。(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 3. アセスメントを統合して、高齢者の全体像を描き、看護上の課題を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 高齢者に対する基本的なコミュニケーション方法を工夫できる(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 5. 高齢者に対する日常生活援助および環境調整の方法を病態に関連付けて説明できる(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 6. グループによるディスカッションや共同作業に積極的に参加する(チームワーク、リーダーシップ) 7. 演習での体験を通して老年看護実践に必要な知識、技術、態度における自己の課題を表現できる。(研究能力、自己研鑽)
老年看護学実習I (地域)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	地域で日常生活を営む高齢者の特徴、並びに過所サービスなど社会資源の役割・機能を理解するとともに、健康維持・介護予防期にある高齢者の看護に必要な知識と態度を修得する。	1. 過所サービス、並びに他の在宅するサービスの特徴と役割を説明できる。(社会資源の活用・開発) 2. 地域在住高齢者の健康状態や日常生活能力を把握するための観察項目を説明できる。(アセスメント力、実践力) 3. 過所サービスに従事する職種の専門性と多職種連携の重要性を説明できる(多職種・多機関連携) 4. 地域在住高齢者とその家族の健康・生活を支える資源、環境、並びに地域包括ケアシステムの要素とその活用について説明できる。(社会資源の活用・開発) 5. 過所サービスの利用者や従事者に受け入れられる社会的な倫理観を備えた態度をとり、主体的に交流を図ることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性) 6. グループワークにおいて積極的に意見を述べるとともに、他者の意見を受け止め、自分の考えを発見させることができる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. 過所サービスの制度的背景、提供している援助、従事している職種、看護職の役割を説明できる。(社会資源の活用・開発) 2. 地域在住高齢者の健康状態や日常生活能力を把握するための観察項目を説明できる。(アセスメント力、実践力) 3. 過所サービスに従事する職種の役割を説明できる(多職種・多機関連携) 4. 看護上での課題を解決するために必要な知識・技術、態度を活用し、実用計画に基づいた実践ができる。(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性) 5. 演習や自己紹介を自ら行うなど、過所サービスの利用者や従事者に受け入れられる基本的な態度をとることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性) 6. グループワークで、自らの意見を発言するとともに、他者の意見を聴きとることで、自分の意見を深めることができる。(チームワーク、リーダーシップ)
老年看護学実習II (病院)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	病院で入院生活を送る高齢者とその家族の健康・生活上の課題を理解するとともに、治療期にある高齢者の看護に必要とされる知識・技術・態度を修得する。	1. 病院で治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の課題を明確にできる。(自然科学的・臨床医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 2. 高齢者の生活歴、意向ならびに加齢変化の特徴を踏まえた個別性、実行性のある看護計画を立案することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 3. 退院後の生活と家族の状況や考慮した看護計画を立案することができる。(アセスメント力、実践力)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 4. 看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた実践ができる。(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 5. 看護チームの一員に求められる看護学生として誠実な態度をとることができる。(倫理観、自律性)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 6. 上記を通じて自己分析を行い、今後の課題を説明できる。(研究能力、自己研鑽)	1. 病院で治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の課題を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 2. 高齢者の生活歴、意向ならびに加齢変化の特徴を踏まえた看護計画を立案することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 3. 退院後の生活や家族の状況を考慮した看護計画を説明できる。(アセスメント力、実践力)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 4. 看護上の課題を解決するために必要な知識・技術、態度を活用し、実用計画に基づいた実践ができる。(倫理観、自律性)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力) 5. 看護チームの一員に求められる看護学生として誠実な態度を示すことができる。(倫理観、自律性)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ) 6. 上記を通じて自己分析を行い、今後の課題を表現できる。(研究能力、自己研鑽)
小児看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	こどもと家族について、成長発達と生活、とりまく社会・環境の特徴を学習する。また、小児看護の理念、こどもに関連した法律や政策をふまえて、こどもの尊厳と権利を擁護し、成長を支援するための小児看護の基本的知識を学ぶ。これらの学習を通して、小児看護の役割と課題を学ぶ。	(1) こどもと家族の尊厳・権利、小児看護の基本的理念と役割を把握し、現状と課題が説明できる。(倫理観、自律性)(人間科学的・社会医学的知識)(社会資源の活用・開発) (2) こどもの成長発達の特徴とその評価について、発達課題ごとに説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (3) こどもの成長、および、家族や社会の状況を理解し、発達の過程と自己の役割が理解できる。(人間科学的・社会医学的知識) (4) こどもの養育にかかわる法、政策、施策について説明し、現状と課題を見いだすことができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) (5) 小児看護学を学ぶ意義を理解して主体的に学習し、自身の学習課題を挙げることができる。(倫理観、自律性)	(1) こどもと家族の尊厳・権利、小児看護の基本的理念と役割を理解し、基本事項が説明できる。(倫理観、自律性)(人間科学的・社会医学的知識)(社会資源の活用・開発) (2) こどもの成長発達の特徴とその評価について基本的な事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (3) こどもの成長、および、家族や社会の状況を理解し、発達の過程と自己の役割が理解できる。(人間科学的・社会医学的知識) (4) こどもの養育にかかわる法、政策、施策について説明し、現状と課題を見いだすことができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) (5) 小児看護学を学ぶことの意義を理解して主体的に学習できる。(倫理観、自律性)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	到達目標（成績評価C）
小児看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	小児期の発達、生活、健康の特徴をふまえ、健康レベルが子どもの成長発達や日常生活、さらには家族に与える影響を理解した上で、さまざまな状況にある子どもと家族について、援助を要する課題をとらえる力を養う。さらに、子どもと家族それぞれがもつ能力を活かした看護援助について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもに特徴的な健康障がいとその症状について、病態と治療および看護を含めて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (2) 健康障がいがある子どもと家族に与える影響について、発達段階の特徴を踏まえて説明できる。(アセスメント力、実践力) (3) 健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について、状況をふまえて説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (4) 子どもと家族について発達、生活、健康の三側面をもとにとらえ、包括的に対象を理解することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (5) 子どもと家族について、発達、生活、健康上の課題を見だし、優先順位を付けて説明することができる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (6) 健康を脅かす環境にある子どもと家族に対する看護について、状況をふまえて説明できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (7) 子どもの権利と尊厳を守るために必要な看護援助について、既習の知識も踏まえて主体的に学習し、自身の学習課題を挙げられる。(倫理観、自律性) (8) 協調活動を通して他者との学び合いを促進し、リーダーシップを発揮できる。(チームワーク、リーダーシップ) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもに特徴的な健康障がいとその症状について、基本的事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (2) 健康障がいがある子どもと家族に与える影響について、基本的事項が説明できる。(アセスメント力、実践力) (3) 健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について、基本的事項が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (4) 子どもと家族について発達、生活、健康の三側面をもとにとらえ、対象の情報を整理することができる。(アセスメント力、実践力) (5) 子どもと家族について発達、生活、健康上の課題を見出すことができる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (6) 健康を脅かす環境にある子どもと家族の看護について、基本的事項が説明できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (7) 子どもの権利と尊厳を守るために必要な看護援助について、既習の知識もふまえて主体的に学習できる。(倫理観、自律性) (8) 協調活動を通してリーダーシップを意識して活動ができる。(チームワーク、リーダーシップ)
小児看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	子どもの成長発達の促進、健康の維持増進を図るために必要な援助に関して、基本的知識と実践力を身につける。また、療養を必要とする子どもに対して適切な看護を提供するために、その根拠を理解した上で基本的な小児看護技術を身につける。さらに、子どもの健康、発達、および生活を理解した上で、健康障がいのある子どもの、援助を要する課題に対して、適切な援助を専ら一連の看護過程について、演習を通して身につける。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの特性を理解し、発達段階に応じた子どもを尊重した関わり方が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (2) 小児看護に特徴的な基本技術について発達段階による違いを理解し、演習を通して実践できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (3) 健康障がいがある子どもへの看護援助の方法について、根拠とともに具体的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (4) 健康障がいがある子どもとその家族に対する看護計画を、適切な優先順位を考慮して立案できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (5) 演習を通して、看護過程展開における自身の思考プロセスについて、根拠を提示しながら言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (6) 既習の小児看護学の知識を具体的な技術に実装するために、主体的な学習とグループワークを通して、自身の学習課題が挙げられるとともに、その対策を言語化できる。(倫理観、自律性) (人間科学的・社会医学的知識) (7) 協調活動を通して他者との学び合いを促進し、リーダーシップを発揮できる。(チームワーク、リーダーシップ) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの特性を理解し、子どもを尊重した基本的な関わり方が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (2) 小児看護に特徴的な基本技術を理解し、演習を通して実践できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (3) 健康障がいがある子どもへの看護援助の方法について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (4) 健康障がいがある子どもとその家族に対する看護計画を立案できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (5) 演習を通して、看護過程展開における自身の思考プロセスを言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (6) 既習の小児看護学の知識を具体的な技術に実装するために、主体的な学習とグループワークを通して、自身の学習課題が挙げられる。(倫理観、自律性) (人間科学的・社会医学的知識) (7) 協調活動を通してリーダーシップを意識して活動ができる。(チームワーク、リーダーシップ) (チームワーク、リーダーシップ)
小児看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	様々な疾病や障がい、および、健康レベルにより医療を必要とする子どもと家族を総合的に理解し、健康上および成長発達上の問題解決に向けた援助を通して、小児看護に必要な知識・技術・態度を、外見と実践を通して学習する。保育施設における乳幼児の日常生活を通して、小児期の特性を理解し、成長・発達を促すかわりの実践を学ぶ。子どもと家族の状況をとりながら看護過程を展開し、援助が必要なケアの内容および方法を導き看護を実践する。加えて、小児医療・小児保健における多職種・多機関連携、社会資源の活用と、小児看護の役割を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 健康レベルや発達段階、生活状況をふまえて、子どもの特性を理解し、子どもを尊重してかわることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (人間科学的・社会医学的知識) (2) 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面をふまえて情報収集し、統合できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (3) 子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見だし、優先順位を付けて説明できる。(アセスメント力、実践力) (4) 子どもと家族を支援する看護を実践し、評価・修正できる。(アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (5) 各実習施設における小児看護の役割について説明し、自己の考えを述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (6) 各実習施設に特徴的な多職種・多機関連携を説明し、看護の役割を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (7) 実習で得た知見を統合するために主体的に学習し、自身の学習課題が挙げられるとともに、その対策を言語化できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (8) 保健医療福祉チームおよび実習グループの一員として、責任をもって行動し、状況に応じたリーダーシップを発揮することができる。(倫理観、自律性) (チームワーク、リーダーシップ) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの特性を理解し、子どもを尊重してかわることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (2) 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面から情報をとらえることができる。(アセスメント力、実践力) (3) 子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見だしそれぞれを説明できる。(アセスメント力、実践力) (4) 子どもと家族を支援する看護が実践できる。(アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (5) 各実習施設における小児看護の役割について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (6) 各実習施設に特徴的な多職種・多機関連携について特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (7) 実習を通して小児看護の知識を統合するために主体的に学習できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (8) 保健医療福祉チームおよび実習グループの一員として求められる基本的な行動をとり、リーダーシップを意識した活動ができる。(倫理観、自律性) (チームワーク、リーダーシップ)
母性看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	Reproductive Health、Women's Healthという視点から、母性の発達段階における身体的・心理的・社会的特性について学習する。またライフサイクルに応じた女性の健康を促す意義と課題や、母性を取り巻く環境や地域システムなどを理解し、母性看護の意義と援助のための基本的知識・態度とそこに関わる看護者の役割を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の特徴・発達段階と身体的・心理的・社会的特性について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 3. 母子保健の動向及び母性の健康を守る制度や法律について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 母性の健康に影響を及ぼす倫理・環境要因について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. Reproductive Healthを取り巻く家族・社会状況・国際状況について理解でき、また、それらを踏まえた母性看護の課題について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 6. 母性看護の意義を理解し、対象となる女性のセルフケア能力を基本とした援助について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の特徴・発達段階と身体的・心理的・社会的特性について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 3. 母子保健の動向及び母性の健康を守る制度や法律について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 母性の健康に影響を及ぼす倫理・環境要因について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. Reproductive Healthを取り巻く家族・社会状況・国際状況について、また、それらを踏まえた母性看護の課題について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 6. 母性看護の意義を理解し、対象となる女性のセルフケア能力を基本とした援助について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発)

科目名称		科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
母性看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	妊娠・分娩期・産褥期・新生児期の経過を理解し、各時期において対象が起こる変化や適応状態をアセスメントし、母性看護の対象に関わる基本的姿勢と基礎的技術を学ぶ。また対象とその家族の持つ課題や健康問題について理解し、周産期が正常に経過し、異常に逸脱しないよう提供されるケアについて、対象自身のセルフケアの能力を活かした援助の基本的知識、技術、態度を修得する。	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠期の全身の変化および生殖器的変化を理解し、妊婦が妊娠期の心身の変化に適応し、母・胎児ともに健康で快適な生活を送り、セルフケア能力を活かした援助について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 分娩の機序を理解でき、母・胎児が安全かつ楽に分娩期を過ごす援助について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 産褥期における全身・生殖器的変化と泌尿系のケアなどが理解でき、産褥期の課題につながるセルフケア能力を活かした援助を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 新生児の健康状態・発育状態を理解し、胎外生活への適応を円滑に行える環境を整えること、援助について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常から逸脱して起こりやすい異常について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 周産期における母性看護の対象に必要な看護援助について、修得した知識を統合して主体的に学習し、自らの課題を見出すことができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力） 	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠期の全身の変化および生殖器的変化を理解し、妊婦が妊娠期の心身の変化に適応し、母・胎児ともに健康で快適な生活を送り、セルフケア能力を活かした援助について理解できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 分娩の機序を理解でき、母・胎児が安全かつ楽に分娩期を過ごす援助について理解できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 産褥期における全身・生殖器的変化と泌尿系のケアなどが理解でき、産褥期の課題につながるセルフケア能力を活かした援助を理解できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 新生児の健康状態・発育状態を理解し、胎外生活への適応を円滑に行える環境を整えること、援助について理解できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常から逸脱して起こりやすい異常について理解できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 周産期における母性看護の対象に必要な看護援助について学習した知識を統合し、自らの課題について考えることができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力） 	
				妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児とその家族の事例を取り上げ、ウェルネスレベルの看護診断の技法を用いて、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過を家族の役割等も含めてアセスメントし、それに応じた援助のあり方について考え、評価を行うという一連のプロセスの基本的な展開方法を学習する。また妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過や適応をとらえる技術に関する基本的知識と実践能力を、演習を通して修得する。	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と健康診査に必要な情報収集と観察のポイントが説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 妊娠・分娩・産褥にある母性の事例について、収集した情報をアセスメントし、ウェルネスレベルの看護過程に基づき、計画立案できる。（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） コミュニケーションを含めてヘルスアセスメントを実施し、母性看護の基本的な援助技術の実践を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 母性看護学に必要な知識を統合し、具体的な技術を提供するために主体的学習を行い、自らの課題を明確にできる。（チームワーク、リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と健康診査に必要な情報収集と観察のポイントが説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 妊娠・分娩・産褥・新生児にある母性の事例について、収集した情報をアセスメントし、計画立案できる。（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） コミュニケーションを含めてヘルスアセスメントを実施し、母性看護の基本的な援助技術の実践を理解できる。（コミュニケーション能力、看護技術） 母性看護学に必要な知識を理解し、具体的な技術を提供するために学習を行い、自らの課題について考えることができる。（チームワーク、リーダーシップ） 	
母性看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児におけるウェルネスレベルの看護過程の展開を学習する。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における事例に基づき、計画立案までの一連の看護過程が展開でき、展開された看護過程を評価できる能力を養う。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期をアセスメントするのに必要な観察のポイントが説明できるようにするとともに、健康診査を実施するための情報収集の項目・方法を述べることができ、コミュニケーション能力を含めてフィジカルアセスメントを実施し、看護ケアを実践する。	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過を理解し、各時期に必要な身体的な援助を実践できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 妊娠・分娩・産褥・産褥および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開ができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 母子との家族との関係、退院後の生活について理解し、母子保健活動における関連機関の役割と社会資源の活用について対象へ提供できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 実習を通して生命の重要性や自己の母性および生命の尊厳について理解し、専門員としての倫理的責務について説明できる。（倫理観、自律性） 実習を通して母性看護活動を担う専門職の一員としての姿勢や態度を説明できる。（倫理観、自律性）（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過と各時期に必要な援助の実践を理解できる。自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 妊娠・分娩・産褥・産褥および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開を理解できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 母子との家族との関係、退院後の生活について理解し、母子保健活動における関連機関の役割と社会資源の活用について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 実習を通して生命の重要性や自己の母性および生命の尊厳について理解し、専門員としての倫理的責務について説明できる。（倫理観、自律性） 実習を通して母性看護活動を担う専門職の一員としての姿勢や態度を説明できる。（倫理観、自律性）（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 	
				人間の精神機能の理解を基盤に、健全なこころ（精神）の発達とそれに影響を及ぼす要因及び精神の危機的状況について理解を深めることができる。また、あらゆるライフステージにおいて、健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、方法を学ぶ。さらに、精神保健の歴史的背景から人権を踏まえた処遇のあり方を考え、精神医療に関連する法律や精神看護をよりくまなく理解し、実践について理解を深めることができる。	<ol style="list-style-type: none"> こころの発達段階に応じたこころの健康について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 成長発達に応じた精神的発達課題について理解し、心理社会的側面との関係を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、対象、方法を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 精神保健の歴史や法律などを学び、精神看護を取り巻く課題について理解を深める。（人間科学的・社会医学的知識） 精神医療・看護についての倫理的課題について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 精神看護学を学ぶことの意味を理解して主体的に学習し、自身の学習課題を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 	<ol style="list-style-type: none"> こころの発達段階に応じたこころの健康について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 成長発達に応じた精神的発達課題について理解し、心理社会的側面との関係を概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、対象、方法を概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 精神保健の歴史や法律などを学び、精神看護を取り巻く課題について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 精神医療・看護についての倫理的課題について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 精神看護学を学ぶことの意味を理解して、自身の学習課題を概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 	
精神看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	人間の精神機能との関係を理解し、精神機能の障がい及び日常生活および身体への影響について看護の視点から援助方法の知識を学び理解を深めることができる。また、精神機能に障がいをもつ人とその家族が抱える健康問題について、代表的な精神疾患の知識を基盤に看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技法を活用し、看護の方向性を考えることができる。特に、精神看護学領域で用いられる看護理論について学び、事例を通して看護過程の展開について理解をする。さらに、看護師自身のメンタルヘルス、ストレスマネジメントを学び精神障がい者のみならずあらゆる世代の方たちの心理社会的側面からの精神保健（メンタルヘルス）について知識を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 精神の障がいによる日常生活および身体に及ぼす影響を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（知識・理解・態度） 心身の発達段階に応じた精神疾患の症状のアセスメントの方法を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 精神障がい者の精神疾患や症状のアセスメントの評価から、倫理的に配慮した援助方法を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・他機関連携）（社会資源の活用・開発） 精神科における薬物療法や精神療法および検査などについて説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携） 地域精神医療福祉や看護およびストリングスについて説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・他機関連携）（社会資源の活用・開発） 保健医療福祉チームと関係性を理解し、連携・協働して当事者のニーズや状況に対応した看護の役割を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・他機関連携）（社会資源の活用・開発） 	<ol style="list-style-type: none"> 精神の障がいによる日常生活および身体に及ぼす影響を概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 心身の発達段階に応じた精神疾患の症状のアセスメントの方法を概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 精神障がい者の精神疾患や症状のアセスメントの評価から、倫理的に配慮した援助方法を概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・他機関連携）（社会資源の活用・開発） 精神科における薬物療法や精神療法および検査などについて概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携） 地域精神医療福祉や看護およびストリングスについて概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 保健医療福祉チームと関係性を理解し、連携・協働して当事者のニーズや状況に対応した看護の役割を概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・他機関連携）（社会資源の活用・開発） 	
				精神に機能障がいをもつ人に必要な治療的介入や看護技術、法律・制度などを踏まえた上で、実際の演習やグループワークを通して学ぶ。またコミュニケーション技術については、ロールプレイングを行い、プロセスレコードに記録することで、自己の振り返りを行い、自己観察に繋がるよう学びを深めることができる。看護過程の展開については、事例を用いて学習を深め、精神機能に障がいをもつ人とその家族に必要な看護・支援について、その人がその人らしく生活を送ることができるという視点から必要な支援を実践することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 精神障がい者に対して必要な看護を提供する際に、人権に対する高い倫理観を持ち、安全に配慮した確かなケアの必要性を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・他機関連携） 精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。（コミュニケーション能力、実践力）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 精神障がい者の家族の健康レベルや生活を理解し、必要な社会資源の活用について説明することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 精神看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 	<ol style="list-style-type: none"> 精神障がい者に対して必要な看護を提供する際に、人権に対する倫理観を持ち、安全に配慮した確かなケアの必要性を概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・他機関連携） 精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を概ね計画することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 精神障がい者の家族の健康レベルや生活を理解し、必要な社会資源の活用について概ね説明することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 精神看護の対象となる人々と援助的コミュニケーションを概ねとることができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 	
精神看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	精神に機能障がいをもつ人に必要な治療的介入や看護技術、法律・制度などを踏まえた上で、実際の演習やグループワークを通して学ぶ。またコミュニケーション技術については、ロールプレイングを行い、プロセスレコードに記録することで、自己の振り返りを行い、自己観察に繋がるよう学びを深めることができる。看護過程の展開については、事例を用いて学習を深め、精神機能に障がいをもつ人とその家族に必要な看護・支援について、その人がその人らしく生活を送ることができるという視点から必要な支援を実践することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 精神障がい者に対して必要な看護を提供する際に、人権に対する高い倫理観を持ち、安全に配慮した確かなケアの必要性を説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・他機関連携） 精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。（コミュニケーション能力、実践力）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 精神障がい者の家族の健康レベルや生活を理解し、必要な社会資源の活用について説明することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 精神看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 	<ol style="list-style-type: none"> 精神障がい者に対して必要な看護を提供する際に、人権に対する倫理観を持ち、安全に配慮した確かなケアの必要性を概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・他機関連携） 精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を概ね計画することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発） 精神障がい者の家族の健康レベルや生活を理解し、必要な社会資源の活用について概ね説明することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 精神看護の対象となる人々と援助的コミュニケーションを概ねとることができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 	

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
精神看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	精神機能に障がいをもち入院治療を受けている人、および精神機能に障がいをもち地域で生活している人に必要な看護について具体的に学び、精神看護の実践が行える基礎知識、技術を修得する。また、精神機能に障がいをもつ人とのかわりを通して、コミュニケーション技術について学びを深め、さらにプロセスレコードを用いて自己を振り返り、自己洞察について理解を深める。さらに、精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を学習する。	1. 精神に障がいをもつ人とのかわりやコミュニケーションを通して対象者への倫理的配慮や自身の自己洞察を深めることができる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 2. 精神障がい者への看護に必要な精神症状や治療についての情報を収集・分析し、看護過程の実践ができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 3. チームカンファレンスを通して精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を理解できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（チームワーク、リーダーシップ） 4. 精神障がい者とその家族との関係や退院後の生活について理解し、必要な社会資源の活用について対象者へ説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 5. 退院後の地域生活の定着に必要なクイックレスポンスを患者と一緒に作成し、保健医療福祉チームと共有できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 6. 実習を通して知識を統合するために主体的に学習し、自身の学習課題が挙げられるとともに、課題解決の方法について説明できる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク・リーダーシップ）	1. 精神に障がいをもつ人とのかわりやコミュニケーションを通して対象者への倫理的配慮や自身の自己洞察を概ね深めることができる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 2. 精神障がい者への看護に必要な精神症状や治療についての情報を収集・分析し、看護過程の実践ができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 3. チームカンファレンスを通して精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を概ね理解できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（チームワーク・リーダーシップ） 4. 精神障がい者とその家族との関係や退院後の生活について理解し、必要な社会資源の活用について対象者へ概ね説明できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 5. 退院後の地域生活の定着に必要なクイックレスポンスを患者と一緒に概ね作成し、保健医療福祉チームと共有できる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 6. 実習を通して知識を統合するために主体的に学習し、自身の学習課題が挙げられるとともに、課題解決の方法について概ね説明できる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ）
看護研究方法	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	看護現象の問題や課題を探索し、看護を発展させていくための看護研究の原理と方法を学ぶ。具体的には、看護における研究の位置づけと意義、研究のプロセス、研究方法、研究の種類、研究計画書の立案を習得する。研究をすすめる上で求められる倫理についても理解し、研究者の行うべきことを学ぶ。研究の科学性、論理性、オリジナリティを保持するために、文献検索の意義、方法等についても学習する。さらに研究論文の書き方や論文の発表の意義・方法について学び、研究の社会的意義について理解する。	1. 臨床疑問から研究疑問を設定する方法について説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 2. 研究疑問の種類によって適用する研究デザインの選いについて説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 3. 研究疑問の解決や研究計画の立案につながる文献検索、入手の方法について理解し、自身で取り組むことができる。（研究能力、自己研鑽） 4. 文献をクリティカルに読み、看護実践や研究計画立案につながる方法について説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 5. 倫理的配慮を行いつながり研究計画を立案、実施する上での注意点を踏まえながら、自身で研究計画を立案してみることができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽） 6. 質的研究方法の種類と各々の研究法の概要と特徴について概ね説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 7. 量的研究方法の種類と各々の研究法の概要と特徴について概ね説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 8. 主体的に学習に取り組み看護研究方法を学習する意義について自分の言葉で述べることができる。（研究能力、自己研鑽）	1. 臨床疑問から研究疑問を設定する方法について概ね説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 2. 研究疑問の種類によって適用する研究デザインの選いについて概ね説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 3. 文献検索、入手の方法について概ね理解し、自身で取り組むことができる。（研究能力、自己研鑽） 4. 文献をクリティカルに読みについて概ね理解することができる。（研究能力、自己研鑽） 5. 倫理的配慮を行いつながり研究計画を立案、実施する上での注意点を踏まえて概ね説明することができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽） 6. 質的研究方法の種類について概ね説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 7. 量的研究方法の種類について概ね説明することができる。（研究能力、自己研鑽） 8. 概ね主体的に学習に取り組み看護研究方法を学習する意義について自分の言葉で述べることができる。（研究能力、自己研鑽）
総合技術演習 (OSCE)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	教育用電子カルテとシミュレーターを用いた事例学習と模擬の知識・技術を統合した技術演習により、領域別実習で実施する頻度の高いフィジカルイグザミネーションの習得とそれを用いた基礎的臨床実践能力を習得する。	1. 領域別実習で実施する頻度の高いフィジカルイグザミネーションについて、科学的根拠に基づいた方法を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 事例に適したフィジカルイグザミネーション（視診・聴診・打診・触診）を理解し、身体状態を観察できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（研究能力、自己研鑽） 3. 事例が安心して支援を受けられるようアドバイザーに配慮した安全・安心な療養環境を提供できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 4. 事例が安心して支援を受けられるよう身体介助のみ、表情、態度、言葉遣い、コミュニケーションを考慮して行動し、自己の課題を表現できる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（研究能力、自己研鑽） 5. 問診とフィジカルイグザミネーションを用いたフィジカルアセスメントにより、事例の身体状態を判断・評価できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（研究能力、自己研鑽） 6. 臨床実習に求められる学習者としての心構えと取り組む姿勢、自身の学習課題を自分の言葉で表現できる。（研究能力、自己研鑽）（チームワーク、リーダーシップ）	1. 領域別実習で実施する頻度の高いフィジカルイグザミネーションについて、基本的な方法を説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 事例に必要なフィジカルイグザミネーション（視診・聴診・打診・触診）を理解し、身体状態を一部観察できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（研究能力、自己研鑽） 3. 事例が安心して支援を受けられるよう安全・安心な療養環境を提供できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 4. 事例が安心して支援を受けられるよう安全・安心な療養環境を提供できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 5. 事例が安心して支援を受けられるよう身体介助のみ、表情、態度、言葉遣い、コミュニケーションを考慮して行動できる。（倫理観、自律性）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（研究能力、自己研鑽） 6. 問診とフィジカルイグザミネーションを用いたフィジカルアセスメントにより、事例の身体状態を部分的に判断・評価できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（研究能力、自己研鑽） 7. 臨床実習に求められる学習者としての心構えと取り組む姿勢を説明できる。（研究能力、自己研鑽）（チームワーク、リーダーシップ）
患者安全	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	この科目では、看護の対象を取り巻く環境に潜む危険を把握し、多職種・多機関との連携・協働を通じて、安全な看護を提供する意義を学ぶ。また、基本的用語や医療事故発生メカニズムについて学び、患者安全における看護職の役割や課題を主体的に探究する。	1. 患者安全を学ぶことの重要性を深く理解し、関連する基本的用語を明確に説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 医療事故のメカニズムを個人・組織・システムの観点から深く理解し、その対応を具体的に説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識） 3. 医療現場におけるチーム医療も重要性を深く認識し、具体的に説明できる。（多職種・多機関連携） 4. 保健医療福祉において対象者の命と尊厳を守るために、患者安全が果たす役割を理解し、積極的に授業に参加することができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）	1. 患者安全を学ぶことの重要性について理解し、患者安全に関する基本的用語を大まかに説明できるが不足を指摘されることが多い。（自然科学的・臨床医学的知識） 2. 医療事故のメカニズムを個人・組織・システムの観点から理解し、その対応策について大まかに説明できるが不足を指摘されることが多い。（自然科学的・臨床医学的知識） 3. 医療現場におけるチーム医療の重要性を深く認識し、具体的に説明できる。（多職種・多機関連携） 4. 保健医療福祉を防止するためのチーム医療について理解し、大まかに説明できるが不足を指摘されることが多い。（多職種・多機関連携） 5. 保健医療福祉において対象者の命と尊厳を守るために、患者安全が果たすべき役割を理解し、授業に参加することができるが不足を指摘されることが多い。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）
リハビリテーション看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	リハビリテーションを必要とする対象者への理解を深め、生活機能障害をもつ人がその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための看護について理解する。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチやリハビリテーション看護の専門性について理解する。	1. 生活機能障害と対象者の心身へ及ぼす影響について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 2. 対象者の回復を促進し、生活の再構築を促すための看護理論について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 3. リハビリテーションチームの特徴やチームにおける看護職の役割と機能について説明できる。（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）	1. 生活機能障害と対象者の心身へ及ぼす影響について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 2. 対象者の回復を促進し、生活の再構築を促すための看護理論について概ね説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 3. リハビリテーションチームの特徴やチームにおける看護職の役割と機能について概ね説明できる。（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）
国際看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	海外における様々な文化的背景を持つ人々への看護の取り組みや課題、および、国内での身近にある異文化/多文化と、看護における取り組みの必要性や現状、課題について知見を深める。グローバル化の中、異文化理解の上にならざる看護師の役割と国際的活動の重要性と課題について学び、日本の看護の現状についても国際的な視点で学習する。	1. 海外における看護の取り組みに関連する課題を列挙できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 2. 国内において文化的背景の異なる対象者に対する看護に関する課題を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 3. 多職種・多機関や住民と連携する中で行う看護の国際的活動について理解できる。（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽） 4. 身近にある異文化/多文化への関心を高め、今後の日常生活や学習の中で積極的に取り組むことを決められる。（研究能力、自己研鑽）	1. 海外における看護の取り組みに関連する重要な課題を挙げることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 2. 国内において文化的背景の異なる対象者に対する看護に関する課題を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 3. 多職種・多機関や住民と連携する中で行う看護の国際的活動について理解を受けることができる。（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽） 4. 身近にある異文化/多文化への関心を高め、今後の日常生活や学習の中で取り組むべきことについて考えられる。（研究能力、自己研鑽）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
保健指導・健康教育論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	保健指導・健康教育の基盤となる行動変容を促すための理論・モデルを学習するとともに、保健指導・健康教育の計画立案と実施、評価の一連の展開方法を学ぶ。	1. 主要な保健行動理論・モデルについて理解し、一部活用してみたいことができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 2. 健康教育の計画立案と実施、評価の一連の展開方法について理解し、要点をおさねながら実際に計画立案してみることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3. 保健指導の展開方法と、必要な技術、態度について自分の言葉で説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 4. 人々の行動変容を促すために求められる看護職の技術と役割について理解し、主体的に学習することができる。(研究能力、自己研鑽)	1. 主要な保健行動理論・モデルの活用方法について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 2. 健康教育の計画立案と実施、評価の一連の展開方法について概ね理解し、実際に計画立案してみることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3. 保健指導の展開方法と、必要な技術、態度について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 4. 人々の行動変容を促すために求められる看護職の技術と役割について概ね理解し、主体的に学習することができる。(研究能力、自己研鑽)
家族看護学	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	家族を看護の対象とする家族看護の考え方を学ぶ科目である。家族を発達する存在として、また、システムとしてとらえるための理論について学び、家族を理解するツールとして、ジェノグラム・エコマップや家族アセスメントモデルについて学習する。現代日本の家族についても、その特徴や社会的背景を概観する。さらに、家族を支援する際の目標設定において重要な「健康な家族」について学び、家族看護過程の特徴を学ぶ。	1. 家族看護における対象理解の方法として、家族周期論のアプローチおよび家族システム論のアプローチについて説明でき、事例において対象となる家族の理解に活用できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 2. ジェノグラム・エコマップ、家族アセスメントモデルについて説明でき、事例において、対象となる家族の理解に活用できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 3. 家族看護の目標となる「健康な家族」について、家族のストレス対処、家族の機能および構造、といった各視点について説明できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 4. 家族看護過程について説明でき、事例において支援の方向性を言語化できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 5. 現代日本の家族の特徴、社会的背景について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 6. 家族を対象とする看護に関心を持ち、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力、自己研鑽)	1. 家族看護における対象理解の方法として、家族周期論のアプローチおよび家族システム論のアプローチについて概ね説明できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 2. ジェノグラム・エコマップについて概ね説明でき、事例において対象となる家族の理解に活用できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 3. 家族看護の目標となる「健康な家族」について、家族のストレス対処、家族の機能および構造、といった各視点を用いて概ね説明できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 4. 家族看護過程について概ね説明でき、事例において支援の方向性を概ね言語化できる。(アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 5. 現代日本の家族の特徴、社会的背景について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 6. 家族を対象とする看護に関心を持ち、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力、自己研鑽)
がん看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	がん医療を受けながらも人らしい生活が維持できるよう支援するために、がんの三大治療法を理解しううえで、がん告知や治療及び治療後で生じる苦痛や苦悩を体験するがんサイバーへの援助の実践について理解を深める。	1. がんを取り巻く現状とがんの特殊性について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 2. がん治療の副作用及び合併症による身体的苦痛への支援について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) 3. がん治療によるがん患者の苦痛や苦悩への支援について、自分の考えを言語化できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (研究能力、自己研鑽) 4. 緩和ケアを受けるがん患者とのコミュニケーションについて、主体的な学習活動より自分の考えを言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 5. がん医療における倫理問題をテーマとした事例検討において、他者の考えを理解し、主体的な学習活動より自分の考えを言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) (チームワーク・リーダーシップ)	1. がんを取り巻く現状について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 2. がん治療による副作用への支援の概要について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) 3. がん治療によるがん患者の苦痛や苦悩について説明できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (研究能力、自己研鑽) 4. 緩和ケアを受けるがん患者とのコミュニケーションのポイントを説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 5. がん医療における倫理問題をテーマとした事例検討において、自分の考えを言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) (チームワーク・リーダーシップ)
災害看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	災害の概念と歴史、その理解と構造について理解し、災害支援体制や災害に関連する法律や政策・施策について学習する。災害サイクル各期における健康増進の目的と特徴と、災害医療および災害看護の活動の実践について学ぶとともに、災害看護の概念、および活動の実際と課題について学ぶ。	(1) 災害の概念・災害の種類・災害の歴史について要点をまとめて説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (2) 災害に関する法律や政策・施策について理解し、現状と課題が述べられる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (3) 災害サイクルと被災者ニーズ、および、災害看護・災害看護について各期の特徴をふまえて説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (4) 災害時に必要なネットワークについて、関係機関の役割をふまえて説明できる。(多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (5) 防災・減災の概念を理解し、状況に応じた備えについて説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (6) 遭遇する可能性のある災害への関心を持ち、災害看護について自身が取り組む課題を述べられる。(研究能力、自己研鑽)	(1) 災害の概念・災害の種類・災害の歴史について基本事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (2) 災害に関する法律や政策・施策について基本事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (3) 災害サイクルと被災者ニーズ、および、災害看護・災害看護について基本事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (4) 災害時に必要なネットワークについて基本事項が説明できる。(多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (5) 防災・減災の概念について、その役割と活動の実際が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (6) 防災・減災の概念を理解し、基本的な備えについて説明できる。(思考・判断・表現) (7) 遭遇する可能性のある災害への関心を持ち、災害看護について自身の考えを述べられる。(研究能力、自己研鑽)
看護管理学	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	本科では、看護の対象となる人々の健康課題に応じて、多職種・多機関と連携・協働し、安全で安心できる看護を提供するための看護管理を学ぶ。看護管理は管理者だけでなく求められるものではなく、スタッフである看護職員も日々の業務において管理の視点を持つことが求められる。本科では、保健診療チームの一員として、看護管理が果たす役割や管理者としての倫理的態度について探究する。	1.看護管理の基本的理論や看護組織について深く理解し、関連用語を明確に解説ができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.保健診療チームが協働するために看護管理が果たす役割を深く理解し、自分の考えを明確に述べることができる。(多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ) 3.患者の権利だけでなく、医療者の権利も擁護する意義や組織倫理について高い関心を示し、自発的に課題に取り組むことができる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)	1.看護管理の基本的理論や看護組織について説明できるが、不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 2.保健診療チームが協働するために看護管理が果たす役割を大まかに理解することができる。(チームワーク、リーダーシップ) (多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ) 3.患者の権利だけでなく、医療者の権利も擁護する意義や組織倫理について関心を示し、課題に取り組むことができるが、不足も多い。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)
学校保健・産業保健	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	学校保健・産業保健の実践現場における、保健活動の展開方法と今日の課題への対策の実際、および養護教諭並びに産業看護職の活動方法を体験的に学習し、学校保健・産業保健の理念、基盤となる法制度、活動の枠組みと展開方法、関係職種との連携、ならびに看護職の役割への理解を深化する。加えて、これらの学習を通じて、自身の看護職としてのキャリア形成について考えることを目的とする。	1.学校保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 2.産業保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3.学校保健・産業保健における看護職の役割について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 4.本科目の学習内容を自身の看護実践やキャリアデザインに生かしていく方法について、自分の言葉で説明できる。(研究能力、自己研鑽)	1.学校保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 2.産業保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3.学校保健・産業保健における看護職の役割について実践的に理解し、概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 4.本科目の学習内容を自身の看護実践やキャリアデザインに生かしていく方法について、概ね説明できる。(研究能力、自己研鑽)
エンドオブライフケア論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	エンドオブライフケアの概念と歴史的経緯について学習するとともに、各ライフステージ、並びに療養・看取りの場におけるエンドオブライフケアの特徴について考察する。さらに、死のとまきで、その人らしい人生を支援する多様な看護実践の方法について理解を深める。	1. エンドオブライフケアが重視されるようになった背景、エンドオブライフケア、並びにアドバンスケアプランニングの概念について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 各ライフステージにおける、本人の意向と生命の質を重視した、本人と家族への援助の特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. 療養・看取りの場における、本人の意向と生命の質を重視した、本人・家族への援助の特徴を説明できる。 4. 人生の最終段階にある当事者・家族に向き合う際に求められる援助者の態度を具体的に説明できる。(研究能力、自己研鑽) (倫理観、自律性)	1. エンドオブライフケアが重視されるようになった背景、エンドオブライフケアやアドバンスケアプランニングの概念について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 各ライフステージにおける、本人の意向や生命の質を重視した援助の特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. 療養・看取りの場における、本人の意向や生命の質を重視した援助の特徴を説明できる。 4. 人生の最終段階にある当事者・家族に向き合う際に求められる援助者の態度を表現できる。(研究能力、自己研鑽) (倫理観、自律性)
認知症看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	認知機能のアセスメントスケールの特徴と測定方法について理解を深める。また、認知症の各ステージに求められるコミュニケーションスキルと環境調整について学習するとともに、身体疾患の治療のために入院する認知症患者の権利と滞在能力を重視する看護実践について検討する。	1. 質問式と観察式両方の認知機能評価スケールの特徴と測定方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 認知症のステージに対応したコミュニケーションスキルを説明するとともに、ロールプレイに反映できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (研究能力、自己研鑽) 3. 身体疾患の治療のために入院する認知症患者の安心・安楽を重視する援助の方法と、多職種連携の必要性を説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携)	1. 質問式・観察式両方の認知機能評価スケールの特徴を説明できる。アルツハイマー型認知症のプロセスを説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 認知症のステージに対応したコミュニケーションスキルを説明するとともに、ロールプレイに反映できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (研究能力、自己研鑽) 3. 身体疾患の治療のために入院する認知症高齢者の安心・安楽を重視する援助の方向性と、多職種連携の必要性を説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価人）	単位修得目標（成績評価者C）
公衆衛生看護管理論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	公衆衛生看護管理における人事管理・人材育成、組織運営・管理、事業管理、予算管理の原則と方法を学習する。また、保健計画、事業計画の策定プロセスと予算の仕組みと、社会資源・地域ケアシステムの開発・管理を通じて地域ケアの質の保証について学び、保健師の役割を理解する。	1. 公衆衛生看護管理における人事管理・人材育成、組織運営・管理、事業管理、予算管理の原則と方法について説明できる。これらの学習を通じて、公衆衛生看護管理の基本的な理念の理解を深化する。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 2. 保健計画、事業計画の策定プロセスと予算の仕組みについて説明することができる。（多職種・多機関連携）（アセスメント力・実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 3. 社会資源・地域ケアシステムの開発と管理を通じて地域ケアの質保証を行う方法について説明するとともに、保健師の役割を考察することができる。（社会資源の活用・開発）（多職種・多機関連携）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽）	1. 公衆衛生看護管理における人事管理・人材育成、組織運営・管理、事業管理、予算管理の原則と方法について概ね説明できる。これらの学習を通じて、公衆衛生看護管理の基本的な理念の理解を深化する。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 2. 保健計画、事業計画の策定プロセスと予算の仕組みについて概ね説明することができる。（多職種・多機関連携）（アセスメント力・実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 3. 社会資源・地域ケアシステムの開発と管理を通じて地域ケアの質保証を行う方法について概ね説明でき、その中で、保健師の実施していることを挙げることができる。（社会資源の活用・開発）（多職種・多機関連携）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽）
健康危機管理論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	健康危機管理の定義と枠組み、並びに関連法令について学習する。健康危機のうち、災害並びに感染症集団発生を取り上げ、体制整備、発災、発生時の保健所の役割と保健師活動の展開方法について学習する。	1. 健康危機管理の定義と枠組み、並びに関連法令について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 災害対策、並びに災害発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽） 3. 演習において、災害対策の体制整備に向けた、地域の状況と予測される被害状況を把握し、必要な予防活動を考えることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 4. 演習において、災害発生時の状況把握と現状分析を行い、その結果を報告することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 5. 避難所運営演習を通じて、災害時の健康二次被害への理解を深めるとともに、予防活動について検討することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 6. 感染症集団発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽）	1. 健康危機管理の定義と枠組み、並びに関連法令について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識） 2. 災害対策、並びに災害発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽） 3. 演習において、災害対策の体制整備に向けた、地域の状況と予測される被害状況を把握することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 4. 演習において、災害発生時の状況把握を行い、報告することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 5. 避難所運営演習を通じて、災害時の健康二次被害への理解を深めることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク・リーダーシップ）（研究能力、自己研鑽） 6. 感染症集団発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽）
ペイシェントフロアマネジメント論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	地域の資源である病床を効果的に活用し、質の高い医療の提供に繋げるために、医療必要度に合わせてペイシェントフローやペイシェントフロアマネジメントにおける看護師の役割について学ぶ。	1. ペイシェントフロアマネジメントの目的と課題を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 2. ペイシェントフロアマネジメントにおける入退院支援部門や病棟の役割と課題を説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 3. 院内外で継続した看護を提供するための方策を検討するグループワークで、他者の考えを理解し、自分の考えを言語化できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）（チームワーク・リーダーシップ） 4. ペイシェントフロアマネジメントに必要な多職種連携と看護師の役割について考え、自分の考えを言語化できる。（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）	1. ペイシェントフロアマネジメントの目的について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 2. ペイシェントフロアマネジメントにおける入退院支援部門や病棟の役割について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携） 3. 院内外で継続した看護を提供するための方策を検討するグループワークで、自分の考えを言語化できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）（チームワーク・リーダーシップ） 4. ペイシェントフロアマネジメントに必要な多職種連携と看護師の役割について説明できる。（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）
ウィメンズ看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	成人女性の高齢化、晩産化、平均寿命の伸長など、社会状況やライフスタイルの変化による女性の心身への影響は大きく、特有の婦人科疾患も増加している。本科目では、女性の健康を脅かしている女性性器疾患への理解を深め、女性のための医療ケアにおける看護について学ぶ。	1. 社会情勢の変化によって生じる女性の心身への影響について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識） 2. 女性特有の生殖器疾患の特徴と支援の方法について説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3. 女性を対象とした必要な看護援助について、修得した知識を統合して主体的に学習し、自らの課題を見出すことができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）	1. 社会情勢の変化によって生じる女性の心身への影響について概ね説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識） 2. 女性特有の生殖器疾患の特徴と支援の方法について概ね説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3. 女性を対象とした必要な看護援助について、説明することができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）
看護学総合実習Ⅰ	看護学部 専門教育科目 統合科目	3	1	病棟の看護部門内、並びに他部門との連携や多職種連携の実際と、病棟が属する二次医療圏の特徴を把握し、その中で当該病棟の果たしている役割と病床機能連携の概略を理解する。さらに、看護職が日常的に連携する保健・医療・福祉・介護の各専門職の専門性を把握しううえで、多職種連携に求められる基本的態度を身に付ける。	1. 二次医療圏内での位置づけについて理解することができる。（多職種・多機関連携） 2. 病院内における連携について理解することができる。（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 3. 多職種連携に際して求められる基本的態度を養うことができる。（多職種・多機関連携）（倫理観、自律性）（チームワーク、リーダーシップ）	1. 二次医療圏内での位置づけについて、基本的な事項を理解することができる。（多職種・多機関連携） 2. 病院内における連携について、基本的な事項を理解することができる。（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 3. 多職種連携に際して求められる基本的態度を概ね養うことができる。（多職種・多機関連携）（倫理観、自律性）（チームワーク、リーダーシップ）
看護学総合実習Ⅱ	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	2	看護の対象となる人々を取り巻く環境（家族、地域の特性、社会資源）を把握し、健康課題に応じて、多職種・多機関と連携・協働して社会資源を活用・開発するための計画を立案することができる。具体的にはこれまでの学習を統合し、臨床実習に即したチーム医療、患者管理、医療安全等を踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を育む。実習場所は、病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護老人福祉施設等とし、学生の関心をもとに調整する。	1. 看護におけるマネジメントの実際について理解できるようになる。（アセスメント力、実践力） 2. ケアチームの役割やメンバーシップについて理解し、チームに貢献するために求められる基本的能力を身に付ける。（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク、リーダーシップ）（社会資源の活用・開発） 3. 複数の受け持ち患者について状態の把握ができ、行動における優先順位について判断できるようになる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 4. 自己の看護観、職業人としての課題について理解できるようになる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）	1. 看護におけるマネジメントの実際について、その要点を理解できるようになる。（アセスメント力、実践力） 2. ケアチームの役割やメンバーシップについてし、チームに貢献するために求められる基本的能力を概ね身に付けることができる。（コミュニケーション能力、看護技術）（チームワーク、リーダーシップ）（社会資源の活用・開発） 3. 複数の受け持ち患者について状態の把握ができ、行動における優先順位について概ね判断できるようになる。（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力） 4. 自己の看護観、職業人としての課題について、その要点を理解できるようになる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）
統合ケア演習	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	1	多職種多機関の連携・協働によって一体的・連続的にケアが提供されるために必要な看護の役割を理解し、実践できる能力を身に付ける。具体的には、複数の疾患・健康課題を有する事例、保健・医療・福祉の連携が必要な事例、治療・ケアを受ける場が変化する事例等への看護展開について学習する。	1. 対象者の状況に応じて、踏まえるべき社会的状況や社会保険制度について具体的に説明できるようになる。（社会資源の活用・開発） 2. 対象者の状況に応じて、提供する看護の優先順位やスケジュールについて具体的に説明できるようになる。（人間科学的・社会医学的知識）（倫理観、自律性）（アセスメント力、実践力） 3. 対象者の状況に応じて、必要な支援とその担い手、ならびに連携・協働における看護職の役割について具体的に説明できるようになる。（倫理観、自律性）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ）	1. 対象者の状況を考慮して、踏まえるべき社会的状況や社会保険制度について説明できるようになる。（社会資源の活用・開発） 2. 対象者の状況を考慮して、提供する看護の優先順位やスケジュールについて説明できるようになる。（人間科学的・社会医学的知識）（倫理観、自律性）（アセスメント力、実践力） 3. 対象者の状況を考慮して、必要な支援とその担い手、ならびに連携・協働における看護職の役割について説明できるようになる。（倫理観、自律性）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ）

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
公衆衛生看護学実習	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	4	保健所・保健センター等において実習を行い、地域住民のQOL向上と健康なまづくりを目指し、個人・家族・集団と地域の健康課題に対して、地域住民、関係機関、多職種と連携・協働しながら組織的に支援を行う上で、保健師に必要な知識、技術、態度を身に付ける。	<p>1. 地域看護診断を通して、地域の特性と健康課題をアセスメントし、地域の健康課題を支援するための地区活動計画を立案することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>2. 家庭訪問、健康相談、健康診査への参加、一部実地を通して、対象となる個人/家族の生活と健康状態、並びに発達課題を把握し、顕在化・潜在化した健康課題の優先度を判断し、支援方法を選択する理由について説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>3. 健康教育の対象となる集団の健康状態、並びに発達課題と、対象を取り巻く自然・社会環境、社会文化的背景をアセスメントし、対象の健康増進能力を高めるための健康教育の計画、実施、評価することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>4. 地区組織活動、自主グループ等へ参加し、保健師による地区組織活動、自主グループ等への支援方法と協働した地域づくりについて実践的に理解を深める。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>5. 様々な発達段階、健康課題に対して実施されている保健福祉事業の法的根拠と目的、意義、並びにその中で求められる保健師の支援技術と役割について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>6. 地域の特性と健康課題、並びに住民のニーズにもとづき、法令や自治体の基本計画等との整合性を踏まえて行う、事業化、施策化、社会資源開発、ケアシステム構築等の実際について、関係する会議等への参加や保健師へのインタビューを通じて、実践的に理解を深める。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>7. 公衆衛生看護活動における多職種・多機関、住民との連携・協働の意義とその中で求められる保健師の役割について説明できる。（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>8. 実習全体を通じて、住民並びに関係者の人権とプライバシー権を擁護する姿勢を身に付け、信頼関係構築につながる適切なコミュニケーションを取るとともに、保健師活動の基本理念となる社会的公正と活動の中で生じる倫理的問題について、実践的に理解を深める。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）</p>	<p>1. 地域看護診断を通して、地域の特性と健康課題をアセスメントし、地域の健康課題を支援するための地区活動計画の立案に取り組むことができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>2. 家庭訪問、健康相談、健康診査への参加、一部実地を通して、対象となる個人/家族の生活と健康状態、並びに発達課題を把握し、顕在化・潜在化した健康課題の優先度を判断し、支援方法を選択する理由について概ね説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>3. 健康教育の対象となる集団の健康状態、並びに発達課題と、対象を取り巻く自然・社会環境、社会文化的背景をアセスメントし、対象の健康増進能力を高めるための健康教育の計画、実施、評価に取り組むことができる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>4. 地区組織活動、自主グループ等へ参加し、保健師による地区組織活動、自主グループ等への支援方法と協働した地域づくりの実現について理解することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>5. 様々な発達段階、健康課題に対して実施されている保健福祉事業の法的根拠と目的、意義、並びにその中で求められる保健師の支援技術と役割について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>6. 地域の特性と健康課題、並びに住民のニーズにもとづき、法令や自治体の基本計画等との整合性を踏まえて行う、事業化、施策化、社会資源開発、ケアシステム構築等の実際について、関係する会議等への参加や保健師へのインタビューを通じて、理解することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>7. 公衆衛生看護活動における多職種・多機関、住民との連携・協働の意義とその中で求められる保健師の役割について概ね説明できる。（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（研究能力、自己研鑽）</p>
卒業研究	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	2	研究の原理と方法をもとに、看護研究の実験を体験し、研究的思考と態度を学ぶことを目的とする。具体的には、看護に関連するテーマを自ら設定し、データ収集・分析を行い、論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養うとともに、批判的な思考力を修得する。	<p>1. 看護に関連する研究テーマを自ら適切に設定することができる。（倫理観、自律性）</p> <p>2. 研究テーマに沿って、データ収集・分析し、結果を考察して、結論を導き出すことができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>3. 研究内容を論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養うとともに、批判的な思考力を修得できる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）（チームワーク、リーダーシップ）</p> <p>4. 研究活動全体を通じて必要な倫理的配慮を行うことができる。（倫理観、自律性）</p>	<p>1. 看護に関連する研究テーマを設定することができる。（倫理観、自律性）</p> <p>2. 研究テーマに沿って、データ収集・分析し、結果を考察することができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）</p> <p>3. 研究内容を論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養う。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）（チームワーク、リーダーシップ）</p> <p>4. 研究活動全体を通じて必要な倫理的配慮を行うことができる。（倫理観、自律性）</p>